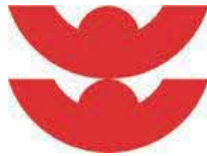


1.市章・市の木・市の花・四季の花・SDGs

市章
(平成17年3月22日制定)



出雲市の「出」を図案化したデザインです。大空にははたたく鳥や、大きく手をひろげる市民をイメージし、全体として飛躍発展する出雲市を表しています。



出雲市 × SDGs

SDGsは、2015年9月の国連サミットで採択された「国際社会における2030年までの開発目標」です。持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットで構成され、「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓っています。出雲市では、こうした世界規模の目標を十分に踏まえ、総合振興計画の各方策、施策の推進に取り組みしていきます。

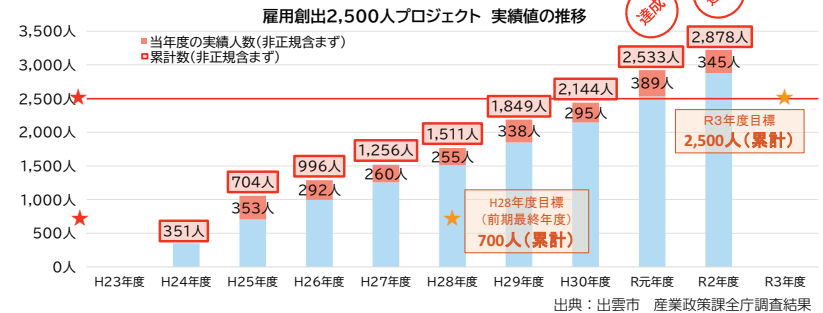
<p>目標1【貧困】</p> <p>あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる</p>	<p>目標2【飢餓】</p> <p>飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する</p>	<p>目標3【保健】</p> <p>あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p>	<p>目標4【教育】</p> <p>すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する</p>
<p>目標5【ジェンダー】</p> <p>ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う</p>	<p>目標6【水・衛生】</p> <p>すべての人々の水と衛生の利用可能な持続可能な管理を確保する</p>	<p>目標7【エネルギー】</p> <p>すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する</p>	<p>目標8【経済成長と雇用】</p> <p>包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する</p>
<p>目標9【インフラ、産業化、イノベーション】</p> <p>強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る</p>	<p>目標10【不平等】</p> <p>国内及び各国家間の不平等を是正する</p>	<p>目標11【持続可能な都市】</p> <p>包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p>	<p>目標12【持続可能な消費と生産】</p> <p>持続可能な消費生産形態を確保する</p>
<p>目標13【気候変動】</p> <p>気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p>	<p>目標14【海洋資源】</p> <p>持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p>	<p>目標15【陸上資源】</p> <p>陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対応ならびに土地の劣化の防止・回復及び生物多様性の損失を阻止する</p>	<p>目標16【平和】</p> <p>持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化</p>

2.出雲未来図の検証結果 (概要)

(第1回出雲市総合計画審議会[令和3年10月開催]資料)

I. 4つの戦略プロジェクトの検証

1. 雇用創出2,500人プロジェクト



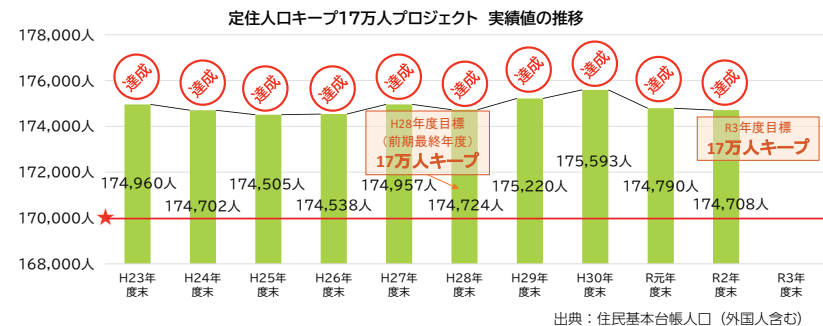
雇用創出2,500人プロジェクトについては、企業誘致や地場産業の振興、出雲ブランドの推進や産官学連携による新産業の創出などにより、平成24年度から令和2年度までの9年間で新規の正規雇用を2,878人創出することができました。

当初、平成24年度から令和3年度までの10年間で2,000人の雇用創出という目標を設定しましたが、実績が予想を上回るペースで推移したため、平成29年度に目標値を2,500人に上方修正しました。この9年間で更に上回る結果となり、目標を達成しました。

企業誘致については、この9年間で、工場等の新增設件数(累計50件)及び新增設に伴う雇用人数(累計2,083人)も、令和3年度末の目標値(それぞれ40件、951人)を大きく上回っており、誘致活動等の積み重ねが目標達成につながりました。

今後は地域経済の持続的な成長・発展につなげるとともに、魅力ある多様な雇用の場を創出していく必要があります。

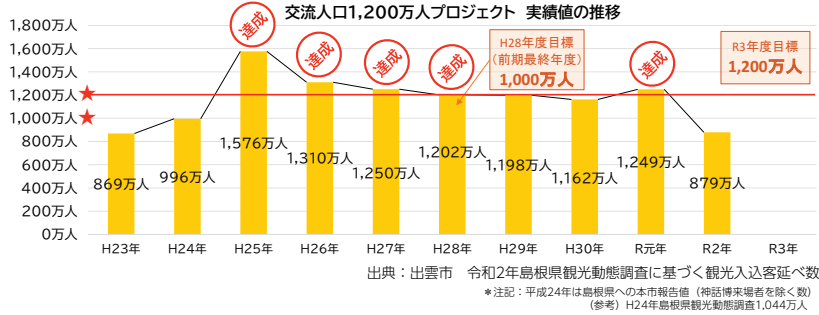
2. 定住人口キープ17万人プロジェクト



定住人口キープ17万人プロジェクトについては、令和2年の国勢調査の島根県速報値において、県内8市で唯一の人口増の自治体となり、計画期間中人口17万人をキープしている状況です。この要因は、Uターンなどの定住支援策や多文化共生の推進などの施策の効果、企業誘致による雇用拡大に伴う転入者の増加などが考えられます。

これらの流れを継続させるために、生活の基盤となる雇用の場を確保するとともに、コロナ禍を契機とした地方回帰の動きを捉えながら、定住支援等の情報発信や就職支援を行うことが必要です。

3. 交流人口 1,200万人プロジェクト



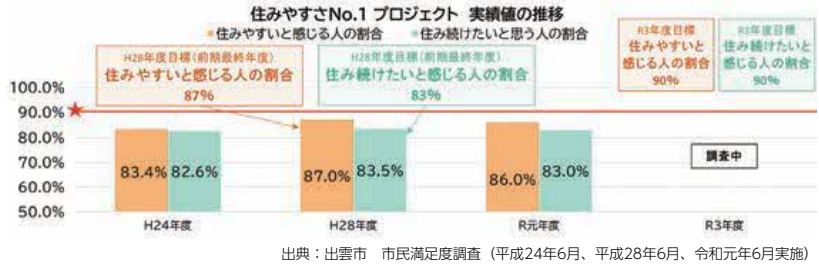
交流人口1,200万人プロジェクトについては、期間中に「平成大遷宮」が行われ、これを契機に神門通りの整備、官民協働による観光振興策、観光客の受け入れ体制を充実させ、交流人口は平成25年には、1,576万人を記録しました。

当初、平成24年から令和3年までの10年間で交流人口1,000万人の目標値を設定しましたが、実績が予想を上回るペースで推移したため、平成29年度に目標値を1,200万人に上方修正しました。

遷宮効果を持続させるよう、日本遺産「日が沈む聖地出雲」、島根半島・宍道湖中海ジオパーク及び国立公園満喫プロジェクトの3つのプロジェクトをはじめ、文化やスポーツ振興などを通じて、令和元年までは、年間1,000万人を大きく上回る交流人口を維持していました。

しかしながら、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、879万人と目標を下回りました。今後は、ウイズコロナ時代の安全・安心な観光を実現するための取組など、新たな観光振興策に向けて取り組む必要があります。

4. 住みやすさNo.1プロジェクト



住みやすさNo.1プロジェクトについては、市民満足度調査の結果を指標としています。令和元年度に実施した市民満足度調査では「住みやすくと感じる人」の割合が86%、「住み続けたいと感じる人」の割合が83%でした。

出雲未来図案策定時に実施した同調査では、「住みやすくと感じる人」の割合が83%、「住み続けたいと感じる人」の割合が82%であり、ともに直近の調査結果が上回りました。

このことは、この間、防災体制の強化、教育環境の充実、子育て支援、医療・介護・福祉の連携、環境保全対策など、市民生活に密着した施策に取り組んだ成果と考えられます。

今後は新型コロナウイルス感染症がもたらした影響も考慮しながら、さらに市民が住みやすい、住み続けたいと感じる施策を講じる必要があります。

II. 6つの基本方策の検証

1. 数値目標達成状況（全体）

※上段：R2年度数値 下段：R1年度数値

6つの基本方策	達成状況（達成率）				達成状況（達成率別項目数）					
	100%以上	60~99%	40~59%	39%以下	100%以上	60~99%	40~59%	39%以下	計	
安全・安心都市の創造	R2年度	44.4%	22.2%	5.6%	27.8%	8	4	1	5	18
	R1年度	38.9%	27.8%	5.6%	27.8%	6	5	2	5	
産業・観光都市の創造	R2年度	37.5%	21.9%	6.3%	34.4%	12	7	2	11	32
	R1年度	34.4%	18.8%	15.6%	31.3%	11	6	5	10	
環境・文化都市の創造	R2年度	26.9%	19.2%		53.8%	7	5	0	14	26
	R1年度	34.6%	7.7%	7.7%	50.0%	9	2	2	13	
交流拠点都市の創造	R2年度	33.3%	16.7%		50.0%	2	1	0	3	6
	R1年度	50.0%	33.3%		16.7%	3	2	0	1	
健康・福祉都市の創造	R2年度	25.0%	18.8%		56.3%	4	3	0	9	16
	R1年度	18.8%	25.0%	6.3%	50.0%	3	4	1	8	
人材育成都市の創造	R2年度	33.3%	15.2%	9.1%	42.4%	11	5	3	14	33
	R1年度	39.4%	12.1%		48.5%	13	4	0	16	
合計	R2年度	33.6%	19.1%	4.6%	42.7%	44	25	6	56	131
	R1年度	34.4%	17.6%	7.6%	40.5%	45	23	10	53	

まちづくりの将来像の実現に向けて掲げている6つの基本方策の各施策について、平成28年度の後期基本計画策定時に設定した数値目標の全体の達成状況をまとめました。（後期基本計画の計画期間は、平成29年度～令和3年度）

全体では、達成率が100%を超えている項目が、令和2年度は33.6%、令和元年度は、34.4%で、3割を超えている状況です。

令和2年度は、131の項目中44項目の事業について、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和元年度までは高い達成率であった観光分野、芸術文化・スポーツ分野等は、大きく下がっている状況です。今後はいわゆる「ウイズコロナ」の時代に対応する事業の在り方を考えていく必要があります。

2. 各基本方策の状況

(1) 安全・安心都市の創造

目標達成率 ■100%以上 ■60~99% ■40~59% ■39%以下

施策項目	目標（一部抜粋）	達成度			
		H27年度末実績値	R1年度末実績値	R2年度末実績値	R3年度末目標値
■防災都市の整備	防災訓練の実施回数（年間）	42回	46回	29回	60回
	配備から15年以上経過した消防車両台数	7台	7台	6台	6台
■地域内交通対策	市設置防犯灯の灯数（累計）	2,168灯	2,258灯	2,268灯	2,260灯
■ゆとりと潤いのある居住空間の整備	放置自転車撤去台数（年間）	147台	97台	101台	100台
	生活路線バスの利用者数（年間）	67万人	54万人	44万人	68万人
	一畑電車の利用者数（年間）	140万人	145万人	100万人	140万人
■情報共有できる高度情報通信社会の実現	上水道 管路の耐震化率	8.5%	11.4%	12.8%	13.5%
	汚水処理人口普及率	85.4%	88.2%	88.7%	89.5%
	地籍調査事業進捗指数	50.0%	51.1%	51.4%	53.0%
	電子申請等利用件数（年間）	8,058件	11,253件	13,371件	9,000件

★は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた項目

(2) 産業・観光都市の創造

目標達成率 ■100%以上 ■60~99% ■40~59% ■39%以下

施策項目	目標（一部抜粋）	達成度			
		H27年度末実績値	R1年度末実績値	R2年度末実績値	R3年度末目標値
■商工サービス業の振興と発展	工場等の新增設件数（累計）	22社	46社	50社	40社
	経営改善計画策定件数（累計）	209件	283件	320件	300件
	雇用創出人数（累計）	1,256人	2,533人	2,878人	2,500人
■農林水産業の振興と発展	出雲ブランド商品認定制度による認定数（累計）	16件	24件	27件	30件
	空き店舗数	26軒	21軒	30軒	10軒
■特産品開発とブランド化の推進	製造品出荷額（年間）	4,101億円	5,356億円	5,580億円	4,300億円
	多面的機能支払交付金の取組面積	5,348ha	5,338ha	5,520ha	5,400ha
■歴史文化遺産と観光資源の発信	民有林面積に占める森林経営計画樹立森林面積の割合	25.2%	26.6%	26.5%	30.0%
	魚価（水産物の平均kg単価）	538円	533円	483円	560円
■観光ネットワークの整備と拡充	認定新規就農者数（累計）	27人	53人	61人	66人
	市民満足度調査「出雲ブランド化の推進（地域の魅力情報発信）」の「満足度」※	26.2%	26.4%	26.4%※	32.7%
	観光スポットにおけるおもてなし組織数	9団体	14団体	14団体	15団体
	観光入込客数（年間）	1,198万人（H29年末）	1,249万人	879万人	1,200万人

※注記：R1年度数値 ★は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた項目

(3) 環境・文化都市の創造

目標達成率 ■100%以上 ■60~99% ■40~59% ■39%以下

施策項目	目標（一部抜粋）	達成度			
		H27年度末実績値	R1年度末実績値	R2年度末実績値	R3年度末目標値
■環境先進都市の構築	ごみ排出量（年間）	60,961t	61,233t	58,525t	58,105t
	一斉清掃参加者数（年間）	10,140人	10,028人	1,840人	11,000人
■地球温暖化・省エネルギー対策	出雲市で自然繁殖させるトキの数（累計）	12羽	21羽	25羽	33羽
	再生可能エネルギー発電設備導入状況（累計）	60,114世帯相当分	69,439世帯相当分	71,432世帯相当分	63,000世帯相当分
■芸術文化・スポーツの振興	市の事務及び事業から発生するCO ₂ の排出量（年間）	7,528t	7,229t	7,407t	7,500t
	文化団体加入者数	6,127人	6,595人	6,530人	6,300人
	市民参加型スポーツイベント（市内）参加者数（年間）	2,787人	1,039人	399人	3,000人

★は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた項目

(4) 交流拠点都市の創造

目標達成率 ■100%以上 ■60~99% ■40~59% ■39%以下

施策項目	目標（一部抜粋）	達成度			
		H27年度末実績値	R1年度末実績値	R2年度末実績値	R3年度末目標値
■都市機能の充実	出雲河下港（垂水、小津地区）の利用船舶数（年間）	193隻	185隻	190隻	200隻
■広域交通網の整備	出雲縁結び空港就航便の利用者数（年間）	82.9万人	99.0万人	30.7万人	90.0万人
■地域内幹線道路の整備	市民満足度調査「他市町村との連携の推進（中海・宍道湖・大山圏域など）」の「満足度」※	18.6%	19.7%	19.7%※	20.0%
■広域連携・他圏域との交流	市民満足度調査「国際交流の推進」における満足度点数 ※	1.4点	2.3点	2.3点※	1.7点

※注記：R1年度数値 ★は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた項目

(5) 健康・福祉都市の創造

目標達成率 ■100%以上 ■60~99% ■40~59% ■39%以下

施策項目	目標（一部抜粋）	達成度			
		H27年度末実績値	R1年度末実績値	R2年度末実績値	R3年度末目標値
■生涯にわたる健康づくりの推進	乳幼児健康診査受診率	98.1%	99.2%	99.5%	100.0%
	胃がん検診受診者数（年間）	2,347人	1,914人	1,002人	2,400人
	市民後見人候補者養成（累計）	31人	31人	17人	50人
■ぬくもりのある福祉サービスの充実	就労支援（就労移行支援・就労継続支援A型・B型）	9,165人日/月	10,778人日/月	10,718人日/月	9,770人日/月
	認知症サポーターの人数	11,572人	20,825人	21,866人	24,000人
■地域特性を生かした医療体制の充実	ふれあいサロンの（延べ）参加者数（年間）	53,019人	48,907人	23,905人	57,000人
	国民健康保険特定健康診査の受診率	41.5%	45.3%	43.9%	60.0%
■保健・医療・福祉の連携強化	健診・人間ドック受診件数（年間）	10,916件	12,129件	10,449件	12,133件

★は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた項目

(6) 人材育成都市の創造

目標達成率 ■100%以上 ■60~99% ■40~59% ■39%以下

施策項目	目標（一部抜粋）	達成度			
		H27年度末実績値	R1年度末実績値	R2年度末実績値	R3年度末目標値
■子ども・若者の育成・支援	放課後子ども教室の実施箇所数	20か所	21か所	18か所	25か所
	各種人権・同和教育研修会の参加人数（年間）	7,880人	8,416人	4,830人	8,000人
	性別による役割分担意識に否定的な人の割合	61.7%	61.7%	71.7%	75.0%
	DV防止講座受講者数（年間）	374人	474人	356人	400人
■お互いを思いやり、尊重しあいまちづくりの推進	防犯教室の開催箇所数（年間）	69か所	81か所	56か所	75か所
	一時預かり事業実施率	51.8%	96.2%	96.2%	96.2%
	不登校児童生徒の割合	1.2%	2.8%	2.6%	1.0%
■生きる力と夢を育む教育体制の充実	学校給食の残菜量	92t	80t	59t	87t
	学校施設の耐震化率	88.6%	95.0%	97.2%	97.8%
■地域を支えるひとづくりと住民参画の推進	島根大学、島根県立大学及び市内専門学校との連携事業数	93件	117件	116件	120件
	科学アカデミー教室等参加者数（累計）	188,967人	178,820人	195,197人	250,000人
	ボランティアセンター登録者数グループ	258団体	276団体	276団体	270団体
	市への相談や補助金等の利用により定住に結びついたUIターン件数（累計）	198件	445件	510件	350件
	ホームページアクセス件数（年間）	3,263千件	3,673千件	6,666千件	3,273千件

★は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた項目

3. 市民満足度調査の結果（概要）

出雲市の施策や取組に対する重要度や満足度、定住意向などについて、市民の意識を把握し、前計画（出雲未来図）の評価や総合振興計画策定のための基礎資料としました。

調査対象	市内在住の18歳以上の方（外国人住民含む）の中から無作為に抽出
調査実施期間	令和3年（2021）9月24日～10月10日
回収状況	送付数：4,000人、回収数：1,718人、回収率：43.0%

1. 回答者の属性

性別	国籍	居住地域
男性 754人 43.9%	日本 1,626人 94.6%	出雲地域 849人 49.4%
女性 871人 50.7%	日本以外の国 24人 1.4%	平田地域 251人 14.6%
答えたくない 26人 1.5%		佐田地域 44人 2.6%
		多伎地域 48人 2.8%
		湖陵地域 43人 2.5%
		大社地域 143人 8.3%
		斐川地域 267人 15.5%
		わからない 4人 0.2%

※未回答67（3.9%）は除く
※未回答68（4.0%）は除く
※未回答69（4.0%）は除く
※未回答68（4.0%）は除く

2. 施策の評価方法について

■重要度と満足度のスコア化

各施策の重要度、満足度について、アンケート調査結果を点数化することによって評価しました。

【計算方法】

①重要度の点数化

$$\frac{[(重要であると回答した数) \times 2点] + [(どちらかといえば重要であると回答した数) \times 1点] + [(どちらかといえば重要でないと回答した数) \times -1点] + [(重要でないと回答した数) \times -2点] + [(わからないと回答した数) \times 0点]}{[有効回答数 \times 2]} \times 100$$

②満足度の点数化

$$\frac{[(満足であると回答した数) \times 2点] + [(どちらかといえば満足であると回答した数) \times 1点] + [(どちらかといえば満足でないと回答した数) \times -1点] + [(満足でないと回答した数) \times -2点] + [(わからないと回答した数) \times 0点]}{[有効回答数 \times 2]} \times 100$$

*算出した数値を100点換算します。

*「重要（満足）である」は評価が高いので2点、「どちらかといえば重要（満足）である」はある程度評価が高いので1点、「どちらかといえば重要（満足）でない」はある程度評価が低いので-1点、「重要（満足）でない」は評価が低いので-2点、わからないのは0点と5段階評価し、等間隔で数値化しました。

*-100 ≤ 点数 ≤ 100

全員が重要（満足）であると答えた場合100点、全員が重要（満足）でないと答えた場合、-100点となります。

*有効回答数 = 総回収数 - (未回答 + 無効回答)

■ニーズ度の評価

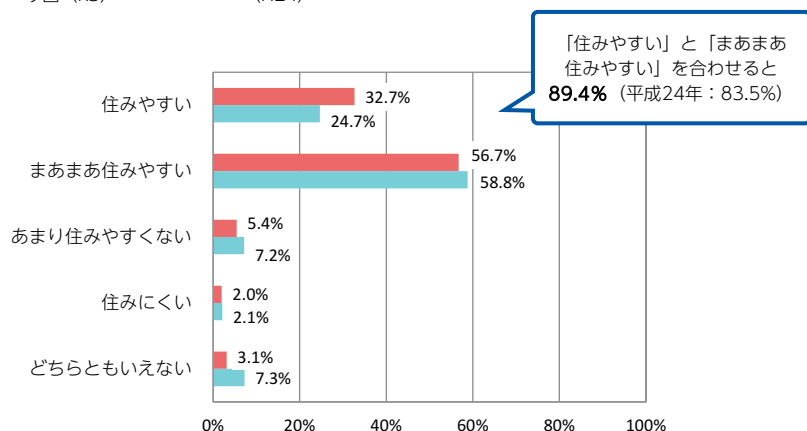
$$(ニーズ度) = (重要度) - (満足度)$$

*上記の計算方法で重要度と満足度を点数化し、重要度から満足度を引いた値をニーズ度としました。

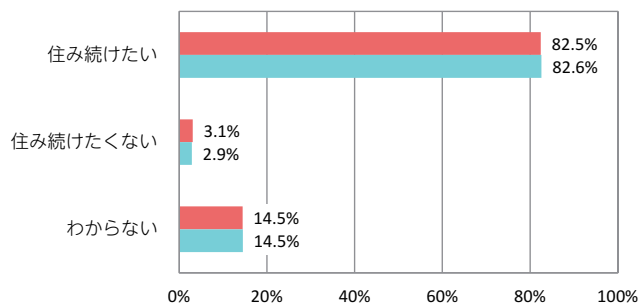
3. 市民満足度調査の結果概要

(1) 出雲市の住みやすさ・定住意向

- 出雲市の住みやすさについて、どのように感じますか。
今回 (R3) ■ (H24) ■



- これからも出雲市に住み続けたいと思いますか。
今回 (R3) ■ (H24) ■



約9割の方が「住みやすい（まあまあ住みやすい）」と回答
平成24年度から約6%増加

- 「住みやすい」と回答した人の割合は32.7%で、平成24年度調査と比べて8.0%増加しました。「まあまあ住みやすい」とあわせると、回答者の89.4%が「住みやすい」と回答しています。
- 「これからも出雲市に住み続けたい」と回答した人は82.5%で、平成24年度調査（82.6%）と同程度となりました。

(2) 市の施策・取組についてのニーズ度（重要度・満足度）

■ 各施策の重要度、満足度について、アンケート調査結果を点数化することによって評価
《各項目ごとに色分け》

都市基盤・機能について	生活環境について
産業・経済について	安心・安全について
教育・文化について	まちづくり、行政サービスについて
健康・福祉について	

① 【重要度 上位10項目】※重要度が高い順

順位	令和3年度 重要度上位10項目	点数
1	消防、救急体制の充実・強化	87.0
2	義務教育（小中学校）の充実	84.8
3	防災体制の充実・強化	84.6
4	病院、診療所等の医療施設の充実	84.4
5	ごみの収集、減量やリサイクルなどの取組	80.7
6	子育て支援の充実	79.9
7	保健施策の充実	79.8
8	防犯に関する取組	79.0
9	交通安全対策の充実	77.9
10	幼児教育の充実	77.4

順位	平成24年度 重要度上位10項目	点数
1	病院、診療所等の充実	85.8
2	消防、救急体制の充実・強化	83.7
3	防災体制の充実・強化	80.2
4	幼児教育、義務教育	79.5
5	就職支援の取り組み	77.7
6	ごみの収集、減量やリサイクル	75.3
7	保健施策の充実	73.8
8	子育て支援の充実	73.8
9	交通安全対策の充実	72.6
10	防犯に関する取り組み	72.4

- 今回調査と平成24年度調査のどちらも、重要度が高い上位10項目のうち4項目を「安心・安全」分野が、3項目を「健康・福祉」分野がそれぞれ占めています。
- 平成24年度調査と比較すると、「就職支援の取組」が上位10項目から外れています。

② 【満足度 下位10項目】※満足度が低い順

順位	令和3年度 満足度下位10項目	点数
1	公共交通機関（バス）の利用しやすさ	△ 34.0
2	歩道整備などバリアフリーに対する配慮	△ 27.8
3	就職支援の取組	△ 22.3
4	周辺地域の整備	△ 21.0
5	企業誘致による雇用の拡大	△ 18.9
6	義務教育（小中学校）の充実	△ 18.8
7	農業振興の取組	△ 17.3
8	公共交通機関（JR）の利用しやすさ	△ 16.5
9	高速道路など広域的な道路網の整備	△ 16.4
10	林業振興の取組	△ 13.9

順位	平成24年度 満足度下位10項目	点数
1	就職支援の取り組み	△ 46.3
2	新エネルギーの利用促進	△ 37.5
3	バスの利用しやすさ	△ 35.0
4	企業誘致の取り組み	△ 31.5
5	歩道整備などバリアフリー	△ 30.0
6	観光客誘客	△ 26.7
7	定住促進に関する取り組み	△ 25.9
8	林業振興の取り組み	△ 25.8
9	商工業振興の取り組み	△ 23.6
10	観光施設の整備、活用	△ 22.7

- 「都市基盤・機能」分野と、「産業・経済」分野の満足度が低い傾向にあります。
- 「公共交通機関（バス）の利用しやすさ」は、点数としては平成24年度と大きくは変わりませんが、今回調査では満足度が最も低くなっています。
- 下位10項目を平成24年度調査と比較すると、「産業・経済」分野が7項目から4項目に減少する一方で、「都市基盤・機能」分野が2項目から5項目に増えています。

③ 【ニーズ度 上位10項目】※ニーズ度=①重要度-②満足度

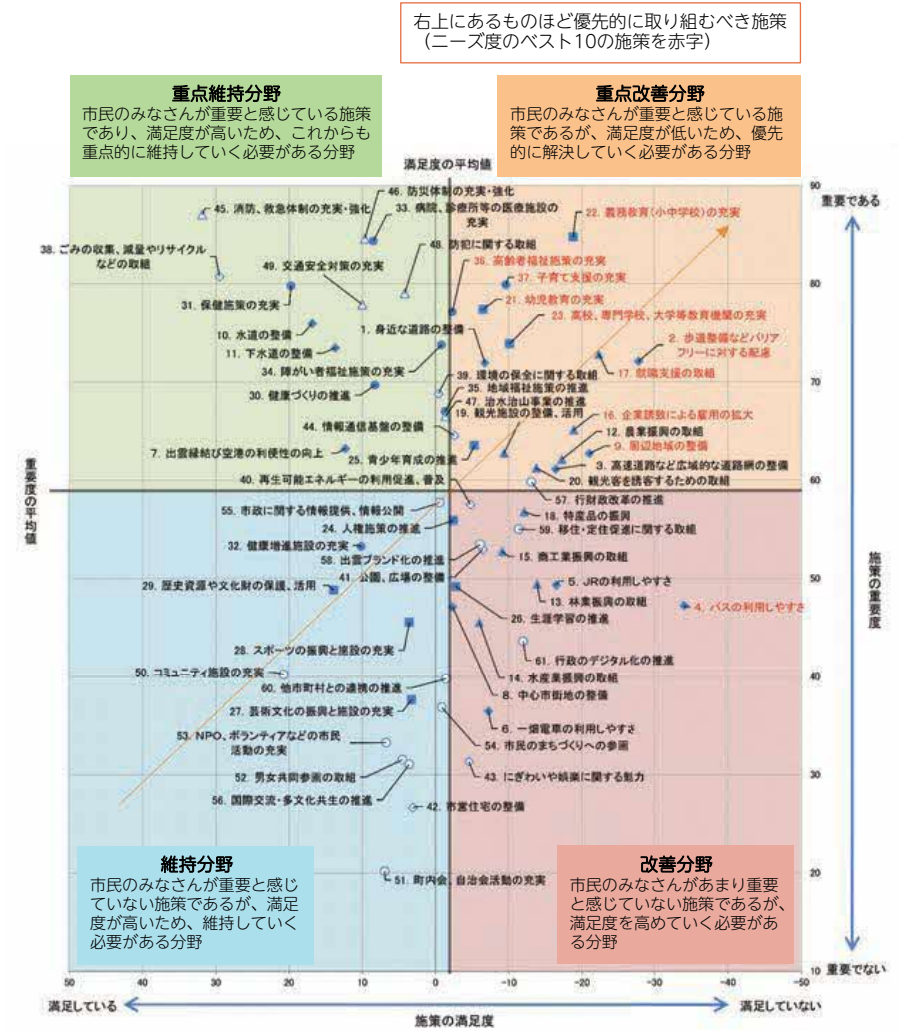
順位	令和3年度 ニーズ度上位10項目	点数	順位	平成24年度 ニーズ度上位10項目	点数
1	義務教育（小中学校）の充実	103.5	1	就職支援の取り組み	124.0
2	歩道整備などバリアフリーに対する配慮	99.9	2	新エネルギーの利用促進	98.5
3	就職支援の取組	95.1	3	歩道整備などバリアフリー	95.2
4	子育て支援の充実	89.5	4	観光客誘客	93.1
5	企業誘致による雇用の拡大	84.0	5	企業誘致の取り組み	90.9
6	高校、専門学校、大学等教育機関の充実	84.0	6	観光施設の整備、活用	86.4
7	幼児教育の充実	83.9	7	子育て支援の充実	86.1
8	周辺地域の整備	83.7	8	定住促進に関する取り組み	82.4
9	公共交通機関（バス）の利用しやすさ	81.2	9	高齢者福祉施策の充実	81.3
10	高齢者福祉施策の充実	79.4	10	幼児教育、義務教育	79.1

平成24年度調査において「産業・経済」分野に分類されている「新エネルギーの利用促進」は、令和3年度調査では同じ分野・名称の項目が無く、「生活環境」分野に「再生可能エネルギーの利用促進」という項目があります。

- ▶ 「都市基盤・機能」分野や「教育・文化」分野のニーズ度が高い傾向にあります。
- ▶ 上位10項目を平成24年度調査と比較すると、「産業・経済」分野が少なくなり、「都市基盤・機能」分野と「教育・文化」分野の項目が増えています。
- ▶ 項目ごとにみると、「高校、専門学校、大学等教育機関の充実」、「周辺地域の整備」、「公共交通機関（バス）の利用しやすさ」が新たに入り、「新エネルギーの利用促進、普及」、「観光施設の整備、活用」、「観光客を誘客するための取組」、「定住促進に関する取組」が外れています。

4. ニーズマップ

市の施策・取り組みに対する満足度・重要度を得点化し、施策ごとに市民ニーズ度を算定するとともに、4つの分野に区分したものです。



4. 高校生アンケート調査の結果（概要）

市内の高校生を対象に、現在の出雲市や将来に対する思いや考え、まちづくりへの提案などについて調査し、出雲市総合振興計画策定のための基礎資料としました。

調査対象	出雲市内の高等学校8校の3年生
回収数	1,376人
調査方法	学校を通じて配付・回収（回答は無記名）
調査実施期間	令和3年（2021）9月～10月

1. 回答者の属性

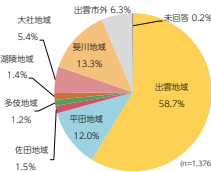
(1) 性別

男性	660人
女性	665人
答えたくない	48人
未回答	3人
計	1,376人



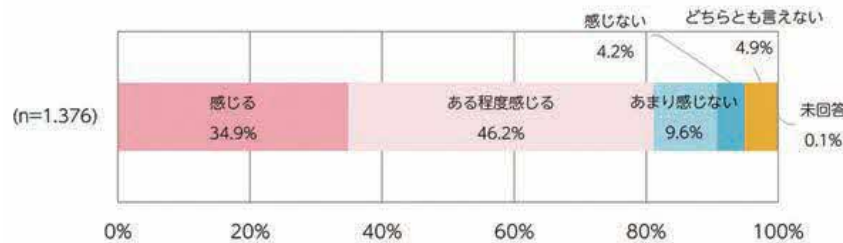
(2) 居住地

出雲地域	808人
平田地域	165人
佐田地域	21人
多伎地域	17人
湖陵地域	19人
大社地域	74人
斐川地域	183人
出雲市外	86人
未回答	3人
計	1,376人



2. 高校生アンケート調査の結果概要

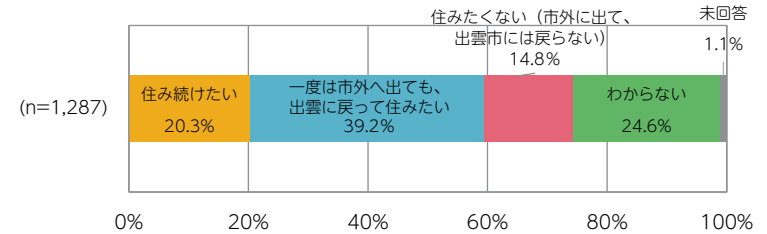
(1) 出雲市に愛着や、魅力・誇りを感じますか



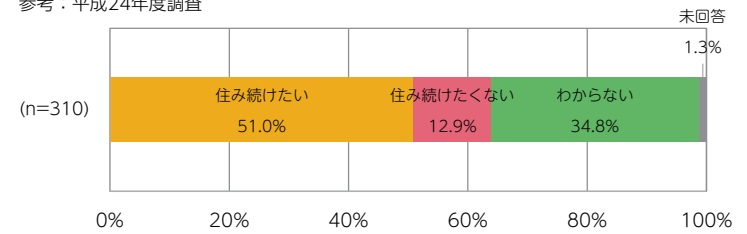
- 「ある程度感じる」が46.2%で最も高く、「感じる」とあわせると81.1%となり、全体の8割強が「愛着や魅力・誇りを感じる」と回答しています。

(2) 出雲市への定住意向

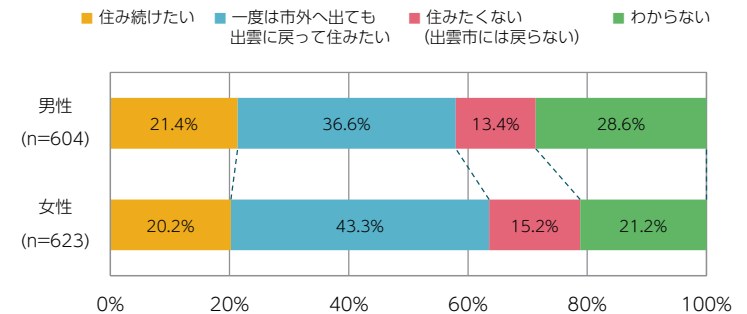
- これからも出雲市に住み続けたいと思いますか。（出雲市にお住まいの方のみ）



参考：平成24年度調査

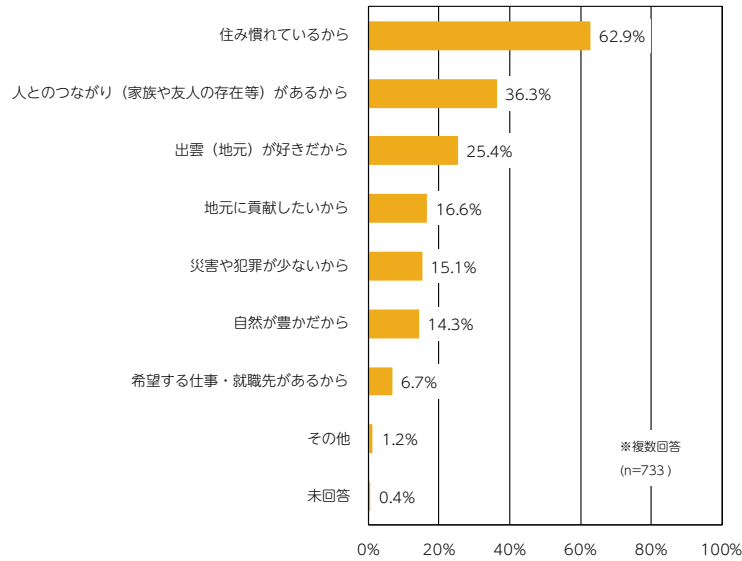


【男女別】

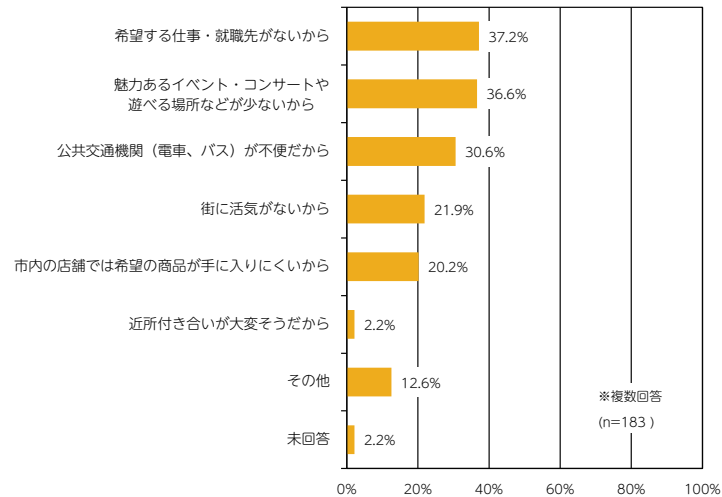


- 「一度は市外へ出て、出雲に戻って住みたい」が39.2%で最も多く、「住み続けたい」の20.3%と合わせると、全体の6割弱が定住意向を示しています。
- 男女別 にみると、「住み続けたい」と回答した人が男性は21.4%、女性は20.2%であり、わずかに男性の割合が高くなりました。
- 一方、「一度は市外へ出て、出雲に戻って住みたい」と回答した人は、男性が36.6%、女性が43.3%と女性の割合が高くなり、「住み続けたい」と「一度は市外へ出て、出雲に戻って住みたい」をあわせると、女性の割合が高い結果となりました。

- 出雲市に住みたい理由を教えてください。
 (※「住み続けたい」または「一度は市外へ出て、出雲に戻って住みたい」を選択した方のみ)
 ※2つまで選択可

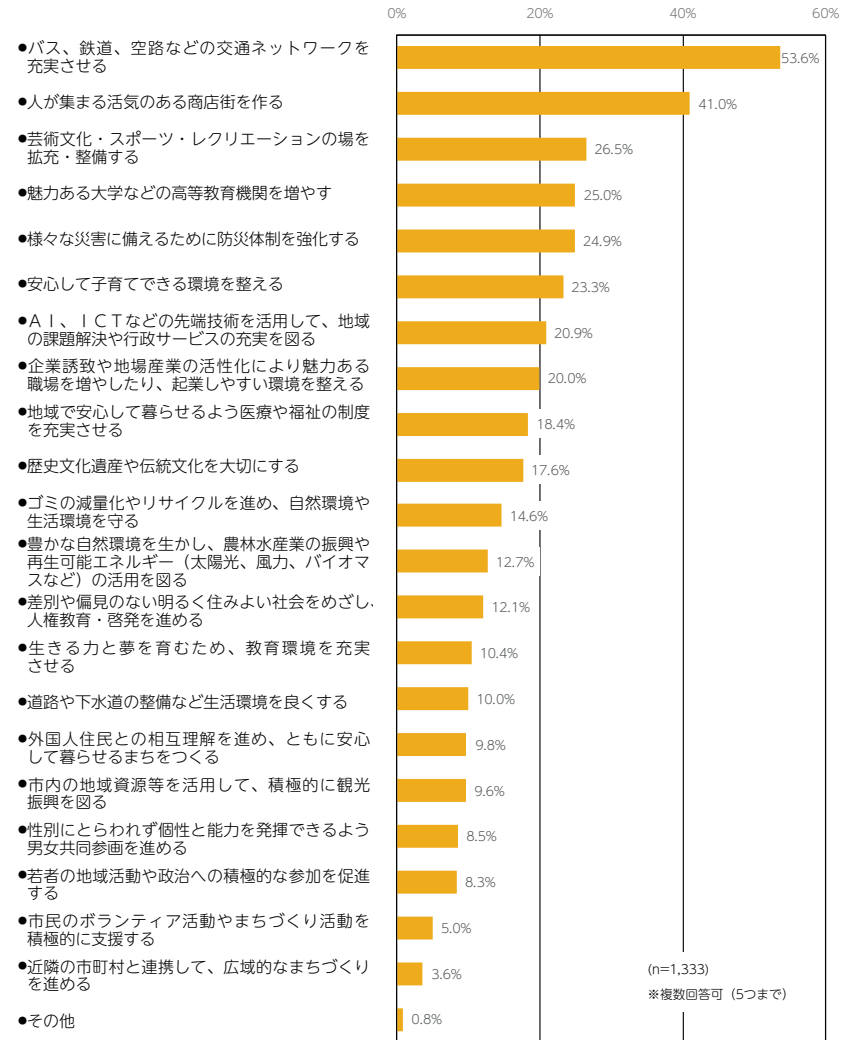


- 出雲市に住みたくない理由を教えてください。
 (※「住みたくない（市外に出て、出雲市には戻らない）」を選択した方のみ)
 ※2つまで選択可



(3) 将来の出雲市について

- 今後の出雲市のまちづくりに向けて、あなたが重要だと思う取組は何ですか。 ※5つまで選択可




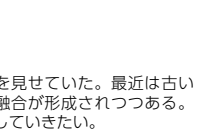



- 今後の出雲市のまちづくりに向けて、重要だと思う取組としては、「バス、鉄道、空路など交通ネットワークを充実させる」が53.6%、「人が集まる活気のある商店街をつくる」が41.0%となっており、この2つが特に高くなっています。
- 続いて「芸術文化・スポーツ・レクリエーションの場を拡充・整備する」が26.5%、「魅力ある大学などの高等教育機関を増やす」が25.0%、「様々な災害に備えるために防災体制を強化する」24.9%などとなっています。





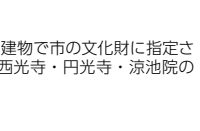
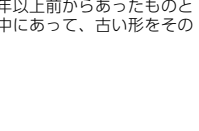

5.各地区の魅力、次世代に残したいもの

(各自治協会作成・提供)

今市地区



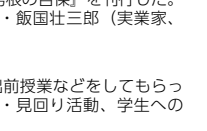
高瀬川と柳のある風景	高瀬川は出雲平野を東西に流れる灌漑水路で、かつては高瀬舟が往来し米や物資の運搬も行われた。今市のシンボルで、古い街並みと柳の並木が風情を醸し出している。8月15日には灯ろう流しが行われ、夏の夜の風物詩になっている。	
桜のある風景	一の谷公園は昔から桜の名所として有名で、多くの人々が花見を楽しんできた。他にも高瀬川、赤川、一の谷公園、日吉児童公園や出雲科学館の裏など、春の訪れを感じながら桜を眺められる場所が今市にはたくさんある。	
商店街と夢フェスタ	今市の中心地として多くの店舗が立ち並び、夜市など賑わいを見せていた。最近では古い建物をリノベーションして新しい店舗ができるなど、新古の融合が形成されつつある。通りを活かした賑わいを創出するイベント「夢フェスタ」も残していきたい。	
おろち太鼓の唄とおろち踊り	都はるみの「おろち太鼓」の唄に合わせて踊るおろち踊りは昭和40年頃から始まり、当時は今市の町の中心街を練り歩いた。その後、一時中断を経て、平成18年におろち踊りパレードとして復活した。	
ひな流し、灯ろう流しやとんどさんなどの年中行事	灯ろう流しは昭和54年から始まり、今年で44回目となる恒例の行事である。その他にもひな流しなど高瀬川を活かした行事が行われている。さらには、とんどさんなど季節を感じる行事を大切に、継続していきたい。	

大津地区



弥生の森 四隅突出型墳墓群	弥生の森には、弥生時代に造られた国内最大級の四隅突出型墳丘墓を中心とする墳墓が密集している。古代出雲王国の首長の墓と考えられており、大陸をはじめ北陸や吉備地方などとの交流を示すものも出土している。	
高瀬川と来原岩樋	高瀬川は出雲平野を潤す灌漑用水として、また物資輸送路、精米・製粉・紺屋等の工業用水として出雲の人びとの生活を支えた。その取水口、来原岩樋は岩山を開削した日本最古級の連続閘門式の施設として土木遺産に認定されている。	
神立河川敷(公園)	大津町民の力で芝生化された広場で、サッカーやグラウンドゴルフ、川あそびや虫捕りなど子どもから大人までが水や自然とふれあったり運動をしたりと楽しめる公園。夏には花火大会の会場としてたくさんの市民が訪れる。	
山田家本陣 三銘水 (西光寺 雪の井 円光寺 月の井 涼地院 華の井)	山田家住宅は松江藩主松平治郷(不昧)の大社参詣時に本陣とした建物で市の文化財に指定されている。また、治郷の孫育貴が茶の湯に適した銘水として、西光寺・円光寺・涼地院の井戸を「雪の井」「月の井」「華の井」と命名した。	
三谷神社投獅子舞	獅子頭を投げつけるように舞う躍動感あふれる獅子舞で、三百年以上前からあったものと考えられている。近郷の獅子舞が「伊勢大神楽」流に改変する中において、古い形をそのまま残すものとして県無形民俗文化財に指定されている。	



塩冶地区

大学附属病院を中心とした医療機関の集積地	大学附属病院をはじめ、いろいろな診療科の病院、歯科医院、薬局などの医療機関が多くあり、安心して生活できる町になっている。	
歴史・文化の町	時代をさかのぼると縄文時代・古墳時代の遺跡も残っている。鎌倉・室町時代には京極佐々木氏が出雲守護となり塩冶氏を名乗った。脈々と長い歴史が流れる町である。	
神社仏閣の町	奈良時代に編纂された「出雲国風土記」には現存する神社が複数記されている。由緒のある神社が多数ある。また、古寺名刹も多く文化の継承、先進の教育の場として出雲地域の文化の礎の役割を果たした。	
文化人排出の町	島根県教育委員会は1968年に「明治百年記念」の事業として『島根の百傑』を刊行した。この中に、塩冶地区の宍道政一郎(実業家:出雲製織創業者)・飯国壮三郎(実業家、政治家)・原石鼎(俳人)の3人が取りあげられている。	
島根大学医学部との連携の町	大学からは、地域の会への参加、住民の健康指導、小学校での出前授業などをしてもらっている。地域は、大学祭の参加・交流、定期的な清掃奉仕活動・見回り活動、学生への食品・生活品支援などを行っている。	

古志地区

古志夏祭り (恵比須祭、大梶祭)	恵比須祭は商業の神様を、大梶祭は郷土の偉人大梶七兵衛の功績を称える祭りとして毎年開催し、町内外から多数の参加者がある。昔ながらの風情の残るこの祭りを後世に残すため地域一体となって取り組んでいく。	
神戸川太鼓	神戸川太鼓は、1986年に故郷に新しい文化を創ろうと地元の若者を中心に結成された。「腕はなくとも伝わるステージを！」をモットーに、これからも魂込めた太鼓を打ち続け、新たな地元文化の発信を行っていく。	
古志スポーツセンター	平成17年に完成し、古志区民体育大会や各種スポーツ大会をはじめ、健康文化活動、子育て支援活動の場として町内外の多くの利用者がある。町内に小学校がない古志町の地域づくりの拠点として活用している。	
ホテルの郷づくり	古志ほたるの会では、一時激減していたホテルを復活させるため、餌になるニナ貝の放流や養殖池でのホテル孵化への試みを行い、飛び交うホテルの数も徐々に増えてきた。引き続き生息環境の整備に取り組んでいく。	
古志堤の桜	旧古志橋の土手沿いに咲いていた桜並木は、斐伊川・神戸川治水事業に伴う神戸川の拡幅工事でその姿を消した。10年ほど前に新堤防に桜を植樹し、毎月地元の有志が施肥作業や草刈を行い、桜の成長を見守っている。	



高松地区

浜山砂丘の歴史と砂防林としての役割

日本海の西風で堆積した砂の砂丘である浜山は、井上恵助氏が主となり1778年に松江藩の植林事業で松の植林を完了した。砂防林として地域に潤いを与え、浜山スポーツ公園としても整備されている。また、保全活動は県、市はもとより「浜山を守る会」を中心に行われている。



農産物の生産拠点として、水稲、ぶどうの栽培と流通

浜町を中心に県内有数のぶどう産地で、「デラウェア」「シャインマスカット」を生産。県内外に出荷し、島根ブランドとして積極的な情報発信をしている。また、「アスパラガス」の生産も増加してきた。さらに、白枝の出雲総合卸売市場では、豊富で新鮮な品物を消費者に供給している。



先人の偉業を「顕彰碑」などとおして伝える

浜山植林の「井上恵助翁」、高瀬川開削の「大槻七兵衛翁」、神戸環の「吉田省三翁」、農民を救った「宅和伊助翁」、教育の「金本摩齋・真澄翁」などの偉業を「碑」や「語り部」をおして後世に伝える。

災害に強く安全・安心なまちづくり

神戸川の神戸堰改修、新内藤川や赤川の拡幅本工事等のハード面の拡充が進んでいる。高松災害対策本部ではスマホを利用した災害情報の伝達、独自の地形調査による避難経路等を載せた防災マップ制作や浸水表示板設置を進めている。また、幼児、児童、生徒の見守り支援として「子ども見守りネットワーク」の活動が15年間続けられている。

みんな集まれ高松ファミリー(高松地区健康づくりネットワーク)

しまね健康寿命延伸プロジェクト事業へモデル地区としての参加を契機に、健康づくりネットワークを立上げ、各団体と連携。健康課題を共有し、文化祭等のイベントでの健康指導や健康調査、講演会などをおして、生き生き元気に楽しく過ごせる高松を目指し活動している。

四絡地区

全天候型施設 出雲ドーム

市内で一番目立つ白い建物「出雲ドーム」は、地区の夏祭りや体育祭、グラウンドゴルフなど、スポーツ、レクレーションを通じた住民同士の交流や、ウォーキングで楽しみながらリフレッシュできる施設として愛され親しまれている、四絡のランドマークである。



四絡災害時支援隊・町内で助け合い

災害発生時に避難行動要支援者を支援する組織、四絡災害時支援隊は平常時から民生委員の協力を得て要支援者宅の家庭訪問を実施している。また、各町内会では町内でまとめた要支援者名簿を作成し支援体制づくりに取り組んでいる。



生活の利便性の良さ、安全・安心に暮らせるまち

四絡地区は、商業施設、医療施設、金融機関などの充実で、子育て世代や高齢者など生活しやすい環境が整っている。また、大きな山や川もなく災害の発生する危険性が低いことや、地域の見守り活動が活発であり、安全・安心なまちである。

若い世代が多く暮らすまち・子育て支援が充実

地域につながりが少なく、育児や暮らしに不安を感じる子育て親子に対して、コアラフリーデーを毎月1回開催。また、季節のイベントも行っている。同時に、保健師による健康相談や子どもの遊び、親同士の交流の場となっている。

三木と兵衛

三木と兵衛は、22歳から49歳で没するまでの青壮年期を、菱根池跡一帯の水を抜くために神光寺川の堀貫や乙見山を切り開いて干拓を行い、5ヶ村(遙堀、江田、八島、浜、菱根)に広大な良田をもたらした偉大な人物である。

高浜地区

天平古道、山手往還を始めとする北山の魅力

北山山麓には太古の道「天平古道」と中世からの主要道路「山手往還」があり、きれいに整備されている。特に矢尾・日下地区の山手往還は石垣とモクセイの生け垣が見事で、平成7年度にはしまね景観大賞を受賞している。



稲作農業の発展に尽くした「山崎夫八郎翁」

江戸時代後期、首蓆(もくしゆく)を緑肥として栽培する稲作農法を創案し米の収穫を増収した郷土の大偉人である。首蓆の葉をデザインしたマークは高浜小学校章、高浜地区章に制定され高浜のシンボルとなっている。



粟津稲生神社(近年の観光スポット)

伏見稲荷神社本宮より「正一位稲生大明神安鎮」の証を受けれる粟津稲生神社は、参道に連なる朱色の鳥居と一畑電車が参道を横切る珍しい景観で、電鉄マニアのみならず全国から撮影に来る観光スポットとなっている。

神楽・獅子舞の伝承

高浜地区内の各神社では神事で奉納する神楽や獅子舞が現存し、5地区では今もその伝承に努めている。中でも大土神社(平野町)の「頭練り神事」、来阪神社(矢尾町)の「矢尾神楽」として神楽舞が継承されている。

高浜小学校の大文字(おおもんじ)

大文字(おおもんじ)とは、高浜小学校児童による書や絵画の作品を年度別に抜粋し大型の掛軸に表装した作品のことである。大正元年度から続く作品は文化祭等で展示し、当時の児童の学びや時代背景を伝える貴重な財産である。

川跡地区

斐伊川の景観や豊かな自然と水の恵み

井上橋から見る雄大な景観や川底に見られる砂粒や砂紋は全国的にも珍しい。また、様々な動植物が生息する豊かな自然がある。斐伊川の水の恵みを利用して発展したまちは、今でも用水路の管理など水を大切にする気風が残る。

子どもたちを見守り育む環境

子どもたちを対象とした多様な活動が実践されている。子どもたちを見守り、育ちを支援する多くの大人の姿がある。親世代を取り込み、これからのまちづくりにつながる活力を育む気運が生まれつつある。

今も残る松江杵築往還や川跡の象徴一里塚の松

江戸時代の斐伊川東流により斐伊川の堤防が当時の主要道路である松江杵築往還となり、今でも川跡地区を東西に通る。沿道には遺跡や神社跡が点在し、川跡コミュニティセンターの敷地内に残る一里塚の2本の黒松は、今でも川跡の象徴として大切にされている。





郷土芸能の継承

出雲市指定無形文化財の中野神楽が継承され川跡神社の例大祭で奉納されている。コミュニティセンターの事業で長年活動している子どもたちの和太鼓や銭太鼓は、川跡地区内外のイベントに招待されるなど、今や川跡地区の郷土芸能に育ちつつある。







鳶巣地区

文化財のまち	大寺薬師仏像収蔵庫に安置されている国の重要文化財の仏像9体をはじめ、三層の遺構面を持つ青木遺跡、対外交渉の拠点であったことが伺える土器が出土している山持遺跡、戦国の山城跡ヶ築城跡など、貴重な文化財が保存継承されているまちである。	
学園のまち	鳶巣幼稚園、出雲北陵中学・高等学校、島根県立大学出雲キャンパスなどがあり、未来を担う子供たちや若者の学びの拠点となっている。 また、児童・生徒の学習支援や学生の実習に協力など、住民との交流も盛んに行われているまちである。	
スポーツの魅力発信するまち	令和6年春に開館する出雲市新体育館を拠点に、スポーツの「する・観る・集う」楽しさを発信するとともに、鳶巣コミュニティセンターが出雲全日本大学選抜駅伝競走第4中継所になっていることなど、スポーツの魅力を全国に発信するまちである。	
健康と福祉のまち	県立大学敷地内から湧出している泉質のよい温泉を利用した「北山温泉」。その隣接地には屋根付きスポーツ・レクリエーション施設「すばやく出雲」がある。市内外を問わず交流や生涯スポーツ、コミュニティ活動等の場として多くの人が集うまちである。	



上津地区

市民生活を支える水資源(斐伊川の恩恵)	上津は、斐伊川とともに歩んできた。度重なる氾濫に悩まされながらも、一方で農業をはじめ「水」の恩恵を受けて生活してきた。上水道の水源の一つとして地域に水源地を擁しており、生活に欠かすことのできない「水」は大きな地域の資源であり、出雲市の住民の生活を支える源となる地域である。	
地域住民の憩いの場「上津公園(さくらヶ丘公園)」	旧上津小学校・中学校跡地があり、「上津公園(通称:さくらヶ丘公園)」として住民憩いの場となっている。ここには多数の桜が植栽されており、春には地域内外から花見客が訪れる。地域でも毎年「上津公園さくら祭り」を盛大に開催し、にぎわいを創出している。	
自然を活用した幼児・児童教育や地域活動	上津幼稚園・小学校は、園児児童数こそ少ないものの、斐伊川や農地、山林など豊富な自然を活用し、子どもたちの心豊かな情操教育を進めている。なかでも小学生を中心とする「上津探検隊」「かえる倶楽部」で、子どもたちが実体験を通して自然を学ぶ姿は国・県から高く評価されている。また、幼稚園には、上津の教育に魅力を感じて地域外から通園する子どももいる。	
尼子氏の歴史を残す上郷城址	かつて尼子氏の山城であった「上郷城址」がある。地域では年末年始や盆、地域の祭り時期などの夜に電球の灯りで城を浮かび上げらせ、心むも景観を創り出している。現在ではすっかり定着し、季節の風物詩として地域住民のみならず、帰省客や斐伊川土手を走る車の人たちに安らぎを与えている。	
学校を地域拠点とした祭り等イベントの開催	上津小学校は、単に地域のイベント会場としての学校ではなく、学校と地域とが一体となってイベントの準備・開催を行っている。小学校は地域の活動拠点であり、地域の子どもを地域全体で見守るという小学校・幼稚園を愛する強い気持ちを持っている。	

稗原地区

人の絆の強さ	少子高齢化が進んでいる中ではあるが、地区住民の協力や助け合いにより、自治会や消防団の加入率は高く、自治会活動も活発に行われている。絆の強さが、若者や外国人が参入する障壁になっている側面もある一方で、野尻町にFISM(株)の出雲オフィスができるなど、新たな絆が生まれている。	
豊かな自然環境	蜚、モリアオガエル、カジカガエル、モクズガニ、カスミサンショウウオ等が生息する稗原川・宇那手川水系と稗原棚田の豊かな自然環境を守っていききたい。近い将来、トキとコウノトリが共に稗原の空を行き交う環境を次世代に残したい。	
8カ所の「地域が誇る観光スポット」	稗原ダム湖周辺、法王寺(野尻町)、市森神社、大蔵神社、戸倉稻荷神社、稗原要害山・大袋山、火守(ほもり)神社、腰折地蔵が「地域が誇る観光スポット」として認定されている。1カ所への観光に止まらず、周遊してもらえよう工夫していきたい。	
文化財(有形・無形)	国の指定重要文化財である法王寺の金銅観音菩薩懸仏1面、金銅蔵王権現懸仏2面(現在県が管理)。無形文化財の大蔵神社獅子舞、火守神社獅子舞、市森神社神楽、宇那手神楽、市森神社神事花。	
稗原コミュニティスクール	小学校・幼稚園・コミュニティセンター・消防に児童クラブを加えた複合施設「稗原コミュニティスクール」。全国に先駆けたコミュニティ施設で、平成6年度公立学校優良施設として「文部大臣奨励賞」を受賞した。	

朝山地区

「ささえ合い」のまち	高齢者世帯が増加する中で、わがことネット(高齢者の見守り活動)、災害時要支援者ネット(安否確認と避難支援)、朝山お助けマン互助会(草刈や買物等の支援)など、地域全体で「ささえ合う」仕組みづくりを進めている。	
「朝山神社」と「馬木不動尊」	「朝山神社」は、神在月に全国の神々が最初に立ち寄られる神社で、旧暦10月1日の神迎え祭には県外からの参拝者も多い。「馬木不動尊」は、日本三木不動明王(1本の木から3体を彫った仏像)の一つと伝えられ、出雲市内外から参拝者が訪れる。	
吉祥姫伝説とゆかりの名所～岩根寺と大坊の五輪の塔～	時の帝がお告げとともに受け取った沓と絵姿が、ある夫婦が岩根寺へ祈願して授かった女の子のものと同じ、天皇の后「吉祥姫」となった。岩根寺は凌霄花(のうぜんかずら)や銀杏でも有名。朝山の坊には、吉祥姫の墓と伝わる五輪の塔が残っている。	
「王院山」、「大袋山」からの眺望	「王院山」は、出雲市で最も高い山。山頂には吉祥姫に仕えた貴人の墓(王院が墓)や雨乞いの碑がある。「大袋山」は、風土記時代に狼煙を上げて急を知らせた「土樫峰(とくらのとびう)」(出雲市指定史跡)があったとされる山。どちらも出雲平野や大社湾の眺望がすばらしい。	
地域に受け継がれる神楽	朝山地区には、見々久神楽、神朝山神楽、馬木町神楽の3つの保存会があり、地域に受け継がれている。特に、見々久神楽は、県指定無形民俗文化財で、御崎神社の例祭に奉納されるほか、毎年、四国の金刀比羅宮(こんぴらさん)にも、神楽を奉納している。	



乙立地区

立久恵峡
(雄大な自然のパノラマ)
(山・川・空気)

出雲市有数の景勝地で、山陰の耶馬溪とも称されている。自然が作り出した雄大な絶景を誇り、国の名勝および天然記念物指定（昭和2年）また、県立自然公園指定（昭和39年）を受けた。周遊型「いやしの観光地」として乙立町の財産であり、活性化の源である。



郷土芸能
(乙立神楽・立久恵音頭)

明治4年塩治地区から伝習し現在に至る里神楽（さとかぐら）の「乙立神楽」をこんな時代（とき）こそ次世代へ伝承させたい。昭和初期、野口雨情氏が立久恵に来遊された時に詠まれた詩に曲、振り付けをした立久恵音頭の伝承（現在も諸行事にアトラクションで出演している）（みなみ小でも行っている）。



住民の郷土愛

現在に至るまでに幾度となく暴れた神戸川等の災害時において住民の絆により共助する（特に平成18年豪雨）。あたたかく強い団結力は、日本一と自負できる。

神門地区

「神門」の地名

出雲国風土記に由来し、神門郡滑狭郷の知井宮と古志郷の布智は、神門水海(神西湖)に注ぐ神門川(神戸川)の左岸に位置し、神門郡の中心であった。昭和18年の合併により神門村が発足し、昭和31年に出雲市に合併した。

歴史文化財

国指定史跡の宝塚古墳、県指定文化財の妙蓮寺山古墳、市指定文化財の深田谷横穴墓、福知寺山横穴群、県指定文化財の極楽寺阿弥陀如来坐像、市指定文化財の多間院貝塚、比布智神社の古型獅子頭、紺糸威胴丸・色々威大袖他、弘法寺仏画

神門盆踊り

ルーツは大正末から昭和初期に遡る。その後、継承者が減り、昭和30年代半ばに姿を消したが、昭和61年の第1回かんどまつり(真幸ヶ丘公園まつり)で復活した。平成4年に保存会も復活し、出雲神話まつりにも参加し個性を發揮している。



真幸ヶ丘公園

桜・さつき・つつじの名所である公園内には、ナイター設備の整った多目的広場、テニスコート、ゲートボール場、クラブハウスや3階建の展望台がある。公園内東側には滝と池を配した日本庭園があり、遊歩道も整備されている。



**出雲ゆうプラザ・
しまね花の郷・
トキ分散飼育
センター**

中国地方最大級の室内温水レジャープール、健康増進施設。花にふれあい、花に学び、各種体験を通じて、自然や園芸を身近に感じることができる公園。トキの飼育・繁殖を行う施設、隣接の公開施設、学習コーナー。

神西地区

**神西湖の
四季を通じての
景観と味覚**

日本で有数の汽水湖であり、「神西湖九景」と呼ばれるほどに四季の変化を楽しめる。日本一とも言われる大和シジミや天然ウナギなど魚介類の宝庫であり、また、渡り鳥が飛来する野鳥の楽園でもある。



**神西城址、須勢理姫命
を祀る那賀佐神社、
深く大きなホール
スポットである出雲国
風土記にある岩坪**

神西城は尼子十旗の一人神西氏の居城で、益前後には一夜城がライトアップされる。那賀佐神社は出雲国風土記、延喜式神名帳にも載る式内社岩坪は出雲市の天然記念物でもあり、近年はヒメボタルやゲンジボタルの乱舞が美しい。

**地区の北部は大社まで
つながる砂丘地
そこに広がる
畑作地帯**

砂丘地における園芸農業と専業で営む若い農業者

神西湖上花火大会

「神西まつり」と「湖陵どんとこいまつり」の共同開催として行う夏の夜の風物。湖上に映る花火は大きく美しく、市内はもちろん、市外県外からも多数の見学者で賑わう。



神西神代神楽

出雲市無形民俗文化財。神西神代神楽保存会が継承し、日御碕神社での定期公演などで披露している。子ども神楽もある。

長浜地区

**歴史的な自然
「菫の長浜」を
中心に国引き神話の
舞台である
長浜海岸砂丘地一帯**

一帯は、出雲国風土記にある「菫の長浜」であり「国引きの綱」とされ、島根半島を引き寄せたとされる主人公が祭られている「長浜神社」もこの地にある。昔から「菫の長浜」は「長浜海岸」のこととして、白砂青松の美しい海岸があることを誇りに思い、地区をあげて歴史的な自然を大切にしている。



遺跡「上長浜貝塚」

菫の長浜の地で発見された遺跡は、発掘調査から、古代（縄文時代早期）から人々が生活していたことが明らかになった貴重な遺跡である。

**荒茅盆踊り
(出雲市無形文化財)**

先祖代々にわたり踊り伝わった伝統ある盆踊りで、地域のにぎわいを創出している。現「出雲神話まつり」の基にもなっている。



くにびき海岸大橋

斐伊川・神戸川治水事業により、神戸川の最も下流に新設された橋である。高欄は、国引き神話の縄をモチーフにした造形になっており、橋中央の下流側に眺望のためのバルコニーが設けられている。

**出雲長浜
中核工業団地**

第二の「くにびき」とも言われる「出雲長浜中核工業団地」が、地区の中央に造成されて以来、多くの企業が誘致された。企業の町内会と言われる「長浜町企業懇話会」を組織し、長浜地区自治協会に加入している（※現在は54社で組織）。農業を中心に発展してきた長浜地区は、企業と地域が共生していることで、工業の町としても発展しており、農業と工業のまちとして変貌している。



平田地区

水運（船による交通）
によって栄えた
歴史と町並み

主たる交通インフラが水運であった時代には、県下No.1の商業地、工業地であった。町の栄枯盛衰の教訓とかつての繁栄をしのばせる町並みである木綿街道を次の世代へと残していきたい。

220年以上の
伝統を誇る
「平田一式飾り」

陶器や茶器などの一式を組み立てて創るという「平田一式飾り」は、220年以上の伝統を誇り、今に伝えられている。創作技術及びその始まりの物語を次世代に残していきたい。



県下第一号小学校の
創設に象徴される
「学問の盛んな町」

明治のはじめ頃、雨森精翁、儀間暢園、石橋孫八、長崎堅造ら教育と学問に情熱を傾け尽力された人物たちの活躍により、県下第一号小学校が創設された。世代を問わず、このことに誇りを持ち、次の世代に伝えていきたい。

水運の町の
伝統的祭り
「七夕仮装船行列」

水上仮装船からはじまった「七夕祭り」は、「平田一式飾り」と同様、古くから行われている伝統行事である。現在では、舟形の山車のスタイルでの仮装船行列となって継続されているが、参加町内は少なくなりつつある。水運の町を象徴するこの伝統行事（祭り）を次世代に残していきたい。



城下町広島の町づくりを
デザインした
戦国期の特権商人
「平田屋佐渡守
（惣右衛門）」

現在の愛宕山展望台は、かつて尼子と毛利の合戦の舞台であった。やがて、毛利の手中となるが、毛利氏の年貢米の管理などをしてきた平田出身の特権商人「平田屋佐渡守（惣右衛門）」によって、平田の町割りが行われた。さらに佐渡守は、その才能、経験、経済力から毛利輝元が広島城を築くときに招かれ、広島島の町づくりを行った。現在も歩道の銘板に「平田屋町」「平田屋川」が刻まれている。このようなドラマティックな実話があることを次世代に伝えていきたい。

灘分地区

体育・スポーツ活動
の盛んなまち

地区民体育祭（秋の運動会）は、全町内参加型の灘分。最大イベント開催（高齢化による生涯スポーツ大会の開催と地区民の笑顔溢れる健康なまちづくりを推進）。



地域共助・協同の町

何を始めるにも昼はお茶の一杯、夜の会合は最後に酒一杯（現在、コロナ感染防止対策で自粛中）で隣近所、町内、地区で纏まる。（宍道湖西岸地区の国営緊急農地再編整備事業後は、高収益作物の収穫時の担い手不足を地域応援隊で支援する予定。）

斐伊川下流部と
周辺田園は
バードウォッチング
の名所

渡り鳥の飛来地として有名な場所で、今年は珍しい「コンギ」などが飛来。（或るときは斐伊川堤防に県内外からの車が50台程度並ぶので、渡り鳥と併せ壮大な景色であるため、空き家などを整備し新たな滞在スポットとして運用したい。また、相反するがこの農業振興地域の農産物への鳥獣害の防止対策が必要）



地域環境
（人と人との付き合い
での世話焼き）

子どもから高齢者まで、隣近所と仲良くゆったりとした生活感があり、それぞれの面倒見が良い灘分。

地域環境
（自然豊かな平坦な
農地と災害に強い
まちづくり）

斐伊川堤防や宍道湖西岸堤防及び地区内の大小河川整備による強靱化並びに排水機場等の整備により、災害の発生（水害の原因である堤防決壊等）を防ぐ対策を進めるまちづくり。災害に対して、避難等の対策を行政と地域で考え、行動するまち灘分を目指す。

国富地区

古墳・史跡・
神社寺社、
それらを繋ぐ
天平古道

古墳：上島古墳、国富中村古墳、美談・国富・口宇賀の古墳群、史跡：要石、小早川主従の墓、お杖桜、宇賀城址、神社・寺社：興源寺、美談神社、東禅寺、若宮神社、慈円寺、縣神社、康国寺、宇賀神社、三玄寺
縄文・弥生時代から人が住み着き、活動した軌跡が土器類破片、古墳群、史跡等により観られ、古代に誘う地として、国富地区は魅力一杯である。また、これらを繋ぐ天平古道を探して歩く楽しさもある。（注：地区内の天平古道整備必要）
（備考）国指定史跡：上島古墳S32.7.27、国富中村古墳H25.3.27

癒される
康国寺庭園

旅伏山の一部約2万坪の裏山と錦鏡池を借景にした眺望は天下一品のお庭で、松平不昧公お抱庭師であり、出雲流庭園の祖・沢玄丹が作庭した枯山水庭園である。なお、アメリカの日本庭園専門誌のランキングで毎年上位にランクされている。（2005年8位、2006年12位）

由緒ある伝統を
守り続ける

「美談神社神楽」、「若宮神社獅子舞」、「宇賀神社獅子舞」、「縣神社頭練り」、「都武目神社神楽舞・散餅」は、神社の祭りの伝統行事で、それぞれのお宮の氏子さんにより現在も大切に継承されている。
（備考）県指定文化財（無形民俗文化財）：宇賀神社獅子舞 S53.5.19



国富発の、独特の
甘みがある再仕込み
醤油と優れた品質の
菌床栽培椎茸

再仕込み醤油（俗称：さしみ醤油）は「紅梅」という商標名で広く全国に知られている。菌床栽培椎茸は、「神々の国 出雲シイタケ」という商標名で広く県外にも出荷され、毎年のように品評会で優秀な成績を収められている。

旅伏山

旅伏山ハイキングコース、頂上の展望広場からの斐伊川・斐川平野眺望、頂上脇の出雲国風土記の都武自神社。標高456mの旅伏山（地元では通称「たぶっさん」）は、古くは烽火台、旅臥城址があった出雲の象徴的な存在の山である。中国自然歩道として整備されたハイキングコース上にあり、季節を問わず多くの方が登る人気ある山である。



西田地区

黄泉の穴・
夜見神社

「出雲国風土記」に、大国主命の求婚を断った綾門日女命が隠れたとされる「黄泉の穴」が奥宇賀町山中にある。近くには小さな祠が建てられ綾門日女命が祀られている（夜見神社）。9月に祭事。



西西郷廃寺

西郷町にある縦縫郡沼田郷の新造院跡。「出雲国風土記」に「出雲に10か所の新造院があった」と書かれたものの一つ。

山根垣古墳

西郷町西谷下にある堅穴系横穴式石室をもつ古墳。



布勢灘海水浴場

明治初期に海軍から浜地使用権を借上げ「布勢灘海水浴場」として開設された県下最古の海水浴場とされる。

獅子舞

獅子舞保存会や有志で例大祭に獅子舞が奉納されている。（6社中5社）



鱈淵地区

河下港	鱈淵鉱山で産出された銅、石膏の積み出し港として整備されてきた。鱈淵鉱山閉山後も、2000年、国の特定地域振興重要港湾に指定され、2007年には5000tバースが完成した。
鱈淵寺	594年、推古天皇の勅願により智春上人が開創した。中世には杵築大社（出雲大社）の別当寺として権勢の座にあり繁栄した。鱈淵寺は長い歴史を今に伝え、多くの文化財を有し、境内288haは国史跡となっている。弁慶伝説でも知られ、秋の紅葉は素晴らしい。
韓電神社	岩船伝説や鉄器文化伝承のある古社で、祭神は、素戔嗚命。急勾配で大小不揃いの自然石の石段を登り巨岩の幅45cmほどの隙間を通して参拝する。パワースポットとして全国に知られている。江戸時代には智那尾（ちお）権現と呼ばれていた。拝殿は別に唐川の集落の中にある。例祭は11月3日。
郷土芸能 （唐川神楽・ 河下盆踊り）	唐川神楽は1825年、斐川町の広瀬正庵に教えられ始まる。神楽台本等の資料が多く残されており、現在も20演目の舞が受け継がれている。島根県指定無形民俗文化財。河下盆踊りは1332年、隠岐に配流になった後醍醐天皇の無事救出を願って鱈淵寺頼源律師が始めたのが起源。出雲阿国が歌舞伎を編み出す基礎になったと伝わる。出雲市指定無形民俗文化財。
お茶の里「唐川」	明治12年（1979年）頃より本格的にお茶の栽培、生産が始まった。毎年春、里の中央部にある唐川館を中心に唐川新茶まつりが行われている。整然と刈り込んだ茶畑の畝々は四季折々、周囲の山の緑に映えて美しい光景を演出する。平成22年1月には第17回「しまね景観賞」大賞を受賞した。



久多美地区

5カ所の 「地域が誇る 観光スポット」	歴史的な遺産が数多く存在し、延命地蔵と玖潭神社、高野寺、能呂志神社、久多美神社の5カ所を出雲市の地域が誇る観光スポットに登録している。
多く存在する古墳	古墳時代後期に造られた数々の古墳が存在し、中でも上石堂平一号墳は、県内唯一の多角形の墳丘を有する貴重なものとして記録されている。
獅子舞や 神楽などの伝統芸能	昔から伝わる伝統芸能として獅子舞や神楽が存在し、それぞれの保存会や町内によって伝承されている。久多見町内「玖潭獅子舞保存会」、東郷町内「東郷獅子舞伝承会」、臼井町内「臼井剣舞保存会」、野石谷町内「野石谷伝統芸能保存会」、上岡田、明川、牧戸、浜、中組町内。
富有柿、 西条柿の産地	久多美地区は古くから富有柿の産地として栄え、現在では西条柿と合わせて島根県内一の生産地である平田地域の中心的地域として、選果場を有し全国への出荷がなされている。
福祉関連施設の充実	地区内には2カ所の障がい者就労支援事業所と2カ所のグループホームなどの福祉関連施設があり、地域との連携を図っている。



檜山地区

地産地消を合言葉に とうふ作り	住民の健康作りのためとうふ作りを始めてから30年が過ぎた。何度も存続の危機を乗り越え、当初から1丁100円で住民の方に販売している。地産の大豆を使用し、小学校の調理室を使用させていただき、子ども達のとうふ作り体験にも一役買っている。
とうふ飯集会	大豆の収穫祭として、子ども達と一緒に平成20年から始まった「とうふ飯集会」は小学校統合と共に出来なくなったが、檜山の伝統食である「とうふ飯」は後世に伝えていかなければならない。今年度からは、大人達だけの「とうふ飯集会」を行い、今後も継続していきたいと考える。
出雲国風土記に まつわる神名榎山 「大船山」と 「烏帽子岩」	大船山は宍道湖周辺にある四つの神名榎山のひとつ。「烏帽子岩」は、出雲国風土記に記されている「峰の西に石神あり。高さ一丈(約3m)、周り一丈。小道の側に小石神百余ばかりあり。」記述のとおり姿を見ることができる。大船山の岩陰からは弥生時代末から古代にかけての土器が出土しており、古代の信仰がしのばれる。
出雲国風土記に まつわる「虹が滝」	巨岩の上から二つの滝が流れ、右側が男滝、左側が女滝と呼ばれ、夫婦滝となっている。滝のしぶきに日光が当たって虹が立つので虹が滝と呼ばれている。
一畑電鉄(株) 布崎変電所	布崎変電所は国の「登録文化財(建造物)」に登録された。1972年(昭和2年)竣工の鉄筋コンクリート造2階建てで建築後80年以上経ても現役である。一畑電車の電化とその後の発展を担った変電所である。



東地区

佐香神社の どぶろく祭り	佐香神社は例祭のため、毎年お神酒(どぶろく)の醸造が許可されており、例祭には造りたてのお神酒(どぶろく)がふるまわれる。
山口神社にのこる 相撲神事	頭人4人は鹿園寺川に設けられた斎場で沐浴し、裸のまま本殿に上がり、お祓いを受け、十二単衣をつけて神事(相撲奉納)が始まる。
崎田神社にのこる 青獅子舞	創立年代は詳らかではないが、出雲国風土記にでており、例大祭は10月15日に行われ五穀豊穣を記念して青獅子舞が奉納される。県の無形民俗文化財に指定されている。
宍道湖西岸地域	宍道湖西岸における湖沼水質保全特別措置法指定で日本百景にも選ばれ、散策道・自転車道も整備され、多自然型護岸となっている。
宍道湖自然館ゴビウス グリーン公園 湖遊館の体験施設	島根県の川と宍道湖、中海の水族館でもあるゴビウスや隣にあるグリーン公園、本格的なアイススケート場でもある湖遊館は子ども達の教育体験の施設でもある。たくさん親子連れがリピーターでやってくる。





北浜地区

北浜の海	時には荒々しく、時には穏やかに、夕暮れ時には神々しく、北浜の海は、四季折々、さまざまな表情を見せてくれる。そして幾多の恩恵をもたらしてくれる。いつまでも守っていききたい心の風景である。
十六島海苔 (うっふるいのり)	十六島湾近辺でしか採れない希少な天然岩のりである十六島海苔は、その歴史は深く、奈良時代にはすでに貢納品として朝廷に贈られていたことが『出雲国風土記』に記されている。また、品質的には、キメが細かく、香りが上品で極上の岩のりに位置づけられている。
エネルギーのまち	十六島鼻から佐香地区三津町までの北山の尾根に日本最大規模の風力発電施設（風車26基、うち北浜地区20基）をはじめ、出雲河下港臨海工業団地（小津町）には、太陽光発電施設（8,400枚のソーラーパネル）、LPG（プロパンガス）二次基地、フライアッシュ（石灰灰利用）基地等エネルギーに関連する施設が複数設置されている。
許豆神社 (こづじんじゃ)	『出雲国風土記』橋縫郡には、北浜地区の許豆社が5社記載されており、そのうち、律令政府公認の神祇官社が2社（小津南の宮、小津北の宮）、出雲国司公認の国社が3社（相代、小津灘の宮、十六島稻荷神社）となっている。
唯浦義勇碑 (ただうらぎゆうひ)	大正元年12月27日、荒れ狂う冬の海で遭難した隣村塩津の漁船救助に赴いた唯浦（現在の美保町）の15名の若者が2度に亘る救助活動において、その尊い命を捧げたことを悼み、その義挙を称揚するため建設されたものである。15青年の義と勇気の心は、永遠に光り輝く北浜地区の宝である。



佐香地区

伝統の延縄漁で獲る 「小伊津のアマダイ」	京阪神の市場に出荷され、「小伊津アマダイ」というブランドを確立して、高級魚として高い評価を得ている。生産者（漁師）と漁協が一体となって、鮮度の保持から品質管理に至るまで、向上に長年取り組んでいる。
長い時を重ねて 生み出された 「小伊津集落の 風景や住まい」	島根半島日本海側の集落にあっては、特に急峻な斜面にへばりつくように家々が立ち並び、一戸当たりの土地が狭いことから建物も陸高になる（3階建・4階建）。「斜面地」や「密度」を家の建て方、暮らしにうまく利用している。
立石神社・赤浦海岸・三津～小伊津の洗濯岩に代表される学術的・歴史学的に貴重な地質・地形遺産	コミュニティセンターを中心として、各種講座・研修やフィールドワーク・学校との連携屋外授業を積極的に活用しており、教育の向上、誘客促進に繋げている。ジオパークの活動として、児童・生徒の教育を介して、地域住民との協力を促し、SDGsの活動にもひろげていきたい。
関係人口と取り組む 地域づくり	4年前から東京の大学から「何か地域に貢献したい」と善意をいただき、これを受けての毎年、来訪、滞在、地元の人たちと多様に関わることで、衰退地域の何か活性化に繋がっているのではと、今後の関係人口の流れに期待したい。



伊野地区

小学校を核とした 地域づくり	地域と学校の連携で小さな学校の大きな魅力を作り出すとともに、地域の教育力を高める取組。校庭の草刈やプール清掃は地域ボランティアも参加。修学旅行経費はふるさと会員の寄付から助成。長期休業中は児童館といのっ子教室連携で終日、子ども預かりを行っている。
海・湖・里山の自然	宍道湖から日本海にぬける地形であるため、変化に富んだ景観を織りなしている。自然の中での遊びや多様な生物との出会いは子ども時代の原風景として残るだろう。
人と人の つながりがある 暮らし	顔と顔がつながるコミュニティなので、温かい関係ができていく。地域の発展のために協力を惜しまない空気が醸成されており、新しい取組もたくさん生まれるようになった。
伊野将来ビジョン やって未来こい！ ネット	2019年度に、10年後の将来ビジョンを作成し、翌年、ビジョン実現のために新組織「やって未来こい！ネット」を立ち上げた。よっ得！？伊野いちや、空き家活用、ICT活用の情報発信など様々な活動が始まった。伊野のまちづくりを推進するエンジンである。



佐田地区

神話と自然が あふれる観光資源	出雲国風土記に登場する須佐神社をはじめ、巨石を祭る多倍神社など、出雲神話にちなんだ神社が多数あり、近年多くの観光客が訪れている。また、天然クーラーの八雲風穴や緑あふれる目田森林公園、飯の原農村公園や遊好の里、出雲須佐温泉ゆかり館など、山と川の自然を存分に満喫できるスポットが多数ある。
地域の伝統と 心をつなぐ郷土芸能	古くから芸能が盛んな地域で、地域の中に10もの社中がある出雲神楽をはじめ、出雲歌舞伎むらくも座や、さだ須佐太鼓、民謡、田植え囃子など、それぞれの団体が、特色ある活動を通じて、年配者から若者へ技術の継承に努めながら伝統芸能を守り伝えている。
挑戦を続ける 住民組織と若者たち	地域の課題を解決しようと、令和3年度「さだ未来ビジョン」を住民主体で策定した。これの具現化に向け「農村RMO」を形成し、持続可能な地域づくりを目指している。また、スマート農業やITを活用した起業、過疎地での塾の開設など、果敢に挑戦する若者たちが、地域の可能性を創造している。
地域で育てる 次世代のこどもたち	少子化が急速に進行する地域にあっても、「佐田愛」にあふれる子供を育てるために、保育所と小学校、中学校の垣根を越え、地域全体で「佐田地域学校運営ブロック協議会」が組織され、地域が一体となって佐田の教育を考え、ふるさと教育の実施を支援している。
中山間地域ならではの 美味なる食	昼夜の寒暖差で栽培された「お米」や、それを活かした「米粉パン」。神戸川や波多川の清流で育った「鮎」や「鱧」などの川の幸。ブルーベリーやビオーネなどの果物。厄介者のイノシシを加工した「イノシシ肉」、「いの骨ラーメン」。耕作放棄地で栽培した「蕎麦」など、中山間地域特有の環境が育てた、美味しい食があふれている。





多伎地区

岐久海岸CCZ整備事業で
一帯を保養遊空間として
施設整備、海と夕日の
美しい自然と調和した
誰にも優しく、
安心して楽しめる
海辺の交流舞台

美しい景観が続く岐久海岸はH5年国の「CCZ整備計画」の認定を受けみんなが集う道の駅「キララ多伎」を中心に一大レジャーゾーンとして整備、多伎のシンボル「風車」など誰もがのびのび活動できる海浜空間である。



多伎地域田儀地区の
魅力ある
ネットワーク

魅力的な海、山を持つ伝説がある地域。国指定「田儀櫻井家たたら製鉄遺跡」は海運を利用した稀な特徴を持っており、遺跡の残存状態も良好である。「手引ヶ丘」公園の素晴らしい環境、施設とともに貴重な資源である。

最適な環境で育った
鳥根県の人気ブランド
「多伎いちじく」

多伎の気候風土に最適だった種類のいちじく「蓬菜柿」。美味しさが各方面で評判となり、昭和30年代より組織化し、昭和44年いちじく部会が結成され多伎町の特産物として全国的に認知されている。



多伎の豊かな森林を
未来へ繋ぐ取り組み

多伎町では大切な水源を守り、緑を育むための森林造成が平成5年から行われている。現在では約300haの広大な森林が水源涵養保安林として整備されており、森林を守り育てるのは大きな財産である。

フィンランド共和国との
信頼で結ばれた
交流を活かした
地域づくり・教育・
文化・スポーツ活動
の取り組み

平成9年北歐風建築物、道の駅「キララ多伎」がきっかけで交流が始まり、国際交流員招致、姉妹都市提携を行い相互交流が進展。大統領からの勲章をいただき強固な信頼関係を築いている。

湖陵地区

西部地域の交通・
産業の要所

山陰道の開通に伴い、道路アクセスがより一層向上し、大田市以西からも通勤圏内となる。働く場が確保（工場団地の誘致）できれば産業の拠点としても期待できる。

自然豊かな環境での
定住区間

砂浜が続く夕日スポットの西浜海岸、四季折々の美しい景観を持つ神西湖、丘陵地や豊かな森林の南山など、多彩で風光明媚な自然に富んだ町である。その美しい景観の中で、町内には保・幼・小・中や3か所の医院があるなど、コンパクトにまとまった「安心で住みたくなるまち」である。

伝統文化の継承

町内7箇所の神社（内、出雲国風土記に3カ所記載されている。大池彌久賀神社、姉谷阿禰神社、差海佐志武神社）で毎年、例大祭が賑やかに開催されている。特に、常楽寺の女子神社で奉納される「御田植安産神事」、差海の佐志武神社で奉納される「神事華・神事舞」（市無形民俗文化財指定）は地区内外から注目を集めている。脈々と若い世代に引き継がれ、伝統文化の継承に繋がっている。



特産品
神西湖しじみ

神西湖は、しじみの生育に適した汽水湖で、濃厚な旨味を蓄えた大和しじみが育つ。日本海に繋がる差海川のしじみも人気がある。

特産品
西浜いも

西浜いもは、日本海に面したミネラルが豊富な砂丘地である西浜地区で栽培されている。ほくほく甘い「紅あづま」と、しっとり甘い「紅はるか」があり、黄金色で甘みが強く県内外から人気がある。



杵築地区

伝統ある
各種行事や文化

杵築地区独特の伝統文化や歴史を誇りに思い、若い世代に引き継ぎ継承していく。そして、このことを通して地域住民の交流を深め顔見知りの町づくりをするともに、地域の活性化につなげる。



多くの文化財・名所
(出雲大社、稲佐の浜、
奉納山、大鳥居、
出雲大社前駅等)

歴史的にも重要な文化財や名所であるので、地域住民は清掃ボランティアをするなどとても大切にしている。出雲国風土記編纂から1300年となる2033年に向け、出雲の歴史や神話を全国にいっそうアピールしていくことで、多くの人に来ていただきたい。

豊かな自然や
資源の活用と育成

大社（杵築）の海の豊かな自然の恵みを生かした水産業の振興。海山の四季や海岸が身近であるという親水性の魅力が次世代に残すとともに、その魅力度を高めることで訪れる人にアピールしたい。

おもてなしの心、
ボランティア活動

地域住民や各種団体等による環境美化活動など、幅広いボランティア活動が行われている。「たくさんの方が訪れる（来てほしい）まち杵築」という意識が多くの地域住民の心の中に存在している。地域自体が「おもてなし」とも言える。



地域の特色ある
食文化

出雲そば、ぜんざいは大変有名である。また、地区内にはたくさんのお店がある。では、他にもどんな特色ある食があるだろうか。新しいものを創造する一方で、今ある食から再発見するなど、地域の特色ある食文化の幅を広げる取組も必要ではないだろうか。

荒木地区

開拓の父
大梶七兵衛
(大梶翁紀功碑・大梶翁銅像・
八通山林・高瀬川・大梶社・
大梶おどり)

荒木浜に植林をし、風害を防ぎ、水を引き、荒涼とした砂地を豊かな農耕地帯にかえた大梶七兵衛翁の功績をしのぶ足跡が多くあり、今もなお、荒木浜開拓の父として称えられている。



国指定文化財
(重要文化財)
「旧大社駅」

かつて多くの参拝客が降り降りした旧JR大社線の終着駅であった。出雲大社の表玄関にふさわしい和風造りの駅舎は、全国でも珍しく格調のある木造建築である。鉄道は平成2年（1990）に廃止されたが、駅舎は保存され、平成16年（2004）に国の重要文化財に指定された。



住みやすい環境

緑豊かな山と川、美しい海という自然に恵まれた環境であるにもかかわらず、平野部も多く、田園風景の中にのびのびとした住居をかまえることができる。県立大社高校、県立浜山公園などが地域内にあり、スーパーマーケット、金融機関などもそれぞれに整備されている。

ぶどう生産

島根ぶどうの産地として、ビニールハウスが多くつくられ、デラウェア種の生産が盛んであった。近年は農家の高齢化、後継者問題などもあり、かつてほどの生産量はないが、シャインマスカットやその他の新品種の生産が工夫を重ねて行われており、若い後継者を育てていきたいものである。

世代間交流

荒木地区は都市化した生活をしていながらも、3世代・4世代の家庭がまだまだ多く存在している。また、地域の結びつきも強く、とんど祭りや神社の祭り、お寺の行事などで様々な世代の交流が見られる。人間関係が希薄になりつつある現代、残していきたいものである。



遙堪地区

恵まれた住環境

遙堪地区は、高度医療機関や大型商業施設が近く、北山などの豊かな自然に囲まれ日当たりの良い暮らし易い地区である。この恵まれた住環境を末永く残していきたい。



県立浜山公園の松林等の整備

遊具など諸施設が整備されているが、それ以外の区域の松林や斜面などが荒れた状態を呈しており、それらを解消し、子どもがどこでも遊べるようにスポーツ公園としての機能向上を目指す。

弥山を始めとする北山山系の森林資源

森林の持つ温室効果ガス削減効果や自然と親しむことによる心身の健全化などの多面的機能を活用するために、森林環境譲与税を森林面積にウェイトを置いた配分としその整備財源とすべきである。

高齢化や後継者不足による遊休農地の有効活用

高齢化や後継者不足で遊休化し負の遺産となりつつある農地を有効活用し、企業の事業継続（BCP）のための代替工場用地とするなど各種産業を導入し就業の場の確保を図る。

素直で明るい子どもたち

遙堪小学校は全校生徒約130名の小規模校で、みな素直で明るく従順な子どもたちである。全員何かの役割を持ち社会で活躍する素地が十分備わっており、地域みんなで育てていかなければならない。



日御碕地区

豊かな自然

海岸線は浜、灘、入江、岬ありと変化に富んだりアス式海岸で大小の島が数多く散在し、四季折々に美しい姿を見せている。出雲日御碕灯台が立つ一帯は「柱状節理」が見られ、経島に落ちる夕日は見事である。



多数の貴重な文化財や歴史文化

「日が沈む聖地」のストーリーなど出雲神話を中心とした歴史文化が脈々と続いている。北前船の寄港地として栄えた面影を残す祝い唄や諸国との関連が判る「屋号」、歴史的な事件を示す石碑が残っている。

豊富な観光資源

「日が沈む聖地」の夕日、東洋一の灯台と言われ世界の灯台100選にも選ばれている重要文化財の出雲日御碕灯台、江戸幕府3代将軍家光の命によって建立された朱塗りの日御碕神社、ウミネコの繁殖地である経島や海中遺跡等、観光資源が豊富である。



伝統行事の継承

経島で行われる御幸神事や旧暦の1月5日に宇籠港の権現島で執り行われる「和布刈神事」、宇籠区・御碕区で正月に行われる「しゃぎり」が継承されている。

豊富な特産物

日御碕沖は暖流と寒流がぶつかり合う海域で、豊富な魚類の水揚げがあり海藻類も多い。灯台周辺の土産品店ではそれらを材料にした干物や乾物が販売されている。また、飲食店では新鮮な海鮮が提供されている。



鵜鷺地区

時を忘れて味わえる美しいまちなみ景観

出雲国風土記に記された古代、北前船が寄港した江戸や明治時代、鵜峠鉾山や鵜銅山で賑わった明治・大正、昭和の初めのロマンに浸ることもできるまちなみ。

自然観察・自然体験ツアー（八千代川、鷺湾や鵜峠浦）

渡船や湾内観光船、海水浴場は県内外の観光客に利用されている。梅湾でのシーカヤックや海水浴、鷺浦湾内の海食洞「モチグラ湾洞や三ヶ月湾洞」、日御碕エリアと接する「深袋・高袋」での遊覧、海食洞窟探検は他地域では類を見ないツーリズムと言える。市観光課や出雲観光協会とタイアップして、インバウンドの誘致も含めてイベントが計画されている。



「日本遺産」のストーリーを彩る文化財

「日が沈む聖地出雲」～神が創り出した地の夕日を巡る～の一部を鵜浦が構成している。伊奈西波岐神社（出雲大社の摂社）や鵜峠の大宮神社をはじめ両地区には由緒ある神社・仏閣が複数あり、島根半島四十浦巡りの札所にもなっている。2017年より現在まで「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」（出雲国風土記の歴史と自然に出会う大地）に認定されている。また、鵜シャギリ、鵜峠シャギリ、権現祭り、恵比寿祭り等の神社関連の伝統的行事についても両地区の行事保存会を中心に継承している。



新鮮な魚貝類や海藻、藻塩などの海産物、塩づくり体験等豊富な海からの贈り物

日本海の豊かな海からは、ブリやマグロ、鯛などの高級魚が捕れる。ワカメやアラメ等の加工品は、県内外から人気が高い。鵜鷺コミュニティセンター敷地内では、「鵜鷺げんきな会」が鵜鷺地区の活性化を目的とし、鷺湾で汲んだ海水を塩炊窯で炊き、藻塩の製造・販売を行っている。

鵜鷺地区社会福祉協議会主催事業「高齢者ふれあいサロン」

地区在住の高齢者による自主的な活動で、鵜鷺コミュニティセンター職員がお世話をしている。健康維持を目的とした様々な体操・研修や合唱、軽スポーツ等の企画、お誕生会、茶菓をいただきながら楽しく交流を深める憩いの場となっている。令和元年度に県知事表彰を受けた（鵜峠のサロン）。（水曜日午前中「ほっとうたほ」/木曜日午前中「ほっと八千代のさと」）



庄原地区

利便性が高い交通アクセス

出雲緑結び空港、高速山陰道・松江尾道線インター、更には「阿宮・武部トンネル」の開通、JR庄原駅もあり利便性が高く交通の要衝となっており、今後の発展性は極めて高く、出雲市にあって東部区域の要衝となる可能性を秘める。



豊かな自然に囲まれており、特産品も豊富

宍道湖、広大な農地、緑豊かな山々（大国山、高瀬山）など豊かな自然に囲まれ、シジミ、農産物、加工品、銘菓などの沢山の特産品がある。又、高瀬山では出雲斐川尼子十旗顕彰会と連携し登山道整備や案内看板等の設置などの取組を行っている。



たくさんの歴史的な遺産

この地域には、神庭、武部、三緒など、伝説に満ちた地名や古社寺や史跡・名勝も多くある。特に、国宝の銅剣・銅矛・銅鐸が出土した荒神谷遺跡は有名であり地域の誇りである。

日本三大美人の湯である湯の川温泉、道の駅湯の川、出雲空港カントリークラブ、いりすの丘など、多彩な癒しとレジャー施設

日本三大美人の湯である湯の川温泉、道の駅湯の川、出雲空港カントリークラブ、いりすの丘など、多彩な癒しとレジャー施設

活発な地域活動

庄原版「ひかわキレイマルシェ」は7年間開催し地域活性化の発信源となり、毎年8月開催の「庄原夏祭り」は100発の花火で締めくく一大イベントに定着、新築されたJR庄原駅舎は地域のボランティア70名余りが清掃団を組織し活動中。女性クラブ「やまももの会」は「喫茶やまもも」を定着。「地域を元気に」を合言葉に、庄原に住む人々には地域活動に真摯に取り組む姿勢が感じられる。

出西地区

肥沃な農地における農業の展開

ほ場整備された農地で三つの農事組合法人、22名の認定農業者が核となり水田農業、特産振興を担っている。またUターン者なども参加しどう栽培が盛ん。全国ブランドの出西しょうが栽培も継承されている。



6カ所の「地域が誇る観光スポット」

万九千社など6カ所が市の「地域が誇る観光スポット」に認定されており、国史跡の出西・伊波野一里塚、出雲国山陰道跡、国登録文化財の常松家住宅など周遊ルートを形成している。市無形指定文化財の二つの神楽もある。



工芸品産業の集積

戦後復興の象徴となった出西窯、出西織や近年、Uターン者が始めたガラス工芸品、復活された出雲五色天神など出西工芸村を形成しつつあり、出西を特徴づける産業として期待されている。

出西水源地、水運を巡る歴史を体現する旧跡など

出西は出西水源地、出西岩樋などを有する「水源の町」である。また新川開削から虻川、海軍大社基地の建設、がどう・葉たばこなどの産業振興、そして今日の宅地開発に至る新川の歴史は、出西そのものの歴史である。

地域挙げての環境学習、保全活動の推進

坪田愛華さんの「地球の秘密」を契機として地区内にアース館が建設され、ここを拠点に環境学習や活動が展開されている。西野小学校では、「ごみ0(りん)ピック」などが地域と一体となって取り組まれている。

阿宮地区

自然豊かな環境

山々から流れ出る清らかな水と斐伊川の恩恵を受け、様々な生き物が生息している。特に畑谷川の源氏ホテル、高野のギフチョウは貴重である。



景観の美しさ

仏經山、城平山を中心とした連山の景観は四季折々に表情を変える。山頂からの眺望は周囲の山々と斐伊川が相まって山水画のごとくである。

太古から人々が暮らしていた地

高山から流れ出る清らかな水と南向きの肥沃な土地で古くから人々の暮らしの営みがあり、古墳、祠、地蔵、神社跡、廃寺跡、城跡など、小さな地域にもかかわらず数多くの遺跡がある。「阿宮・上出西の寶」平成31年発行参照

若者が引き継ぐ神楽、獅子舞

阿宮神楽は出雲市無形文化財に指定され、各地で公演を行い地域のPR活動にも貢献している。また、下阿宮獅子舞、上阿宮獅子舞は阿吾神社例大祭で奉納される。子供たちも稽古に参加するなど後世に伝える取り組みも行っている。



阿宮武部トンネルと斐伊川堤防拡幅

住民の永年の夢であった「阿宮武部トンネル」が完成する。トンネルを中心としたインフラ整備が進むに従い、利便性はもとより人流は相当なものと予測できる。新たな阿宮の魅力づくりに住民を挙げて取り組みたい。

伊波野地区

岩野薬師祭と奉納相撲

岩野薬師祭は、毎年9月8日、9日に開催され、子ども相撲など斐川全域から参加があり、大いに盛りあがっている。土俵の修繕などは自治協会が中心となって行っている。



各宮の獅子舞などの伝統行事

地域内に多数存在するお宮では、秋祭りの際に獅子舞が行われている。お宮ごとに舞の形に特色があり、引き継いでいく必要がある。

菜の花畑と五右衛門川土手の桜並木

春の菜の花畑と満開時の五右衛門川土手の桜並木のコントラストは絶景である。



斐伊川や田園風景など豊かな自然の景観

斐伊川や田園風景など、美しい景色を生かした散策ルートを歩くウォーキングイベントを毎年開催している。

多文化共生のまち

住民の約13%が外国籍である。自治会加入者も徐々に増えている。中には定住希望者もあり、将来の地域の担い手となってもらえるよう交流を継続している。



直江地区

地域の人口や世帯数が増え、多文化共生のまちづくりの可能性があること

戸建て団地の増加に伴い、他地区から転居する人や外国人住民等が増えているため、新しい力でまちづくりが進む可能性がある。また、子どもたちが多様性について学ぶ機会が増えている。

誘致企業や工業団地があり、企業が地元雇用や地域活動へ協力的であること

地元の人材が雇用されている。地域行事への協賛をしてもらっている。

豊かな歴史文化が残り、伝統的な行事が受け継がれていること

古代山陰道跡や由緒ある寺社等史跡や歴史を学ぶ場所が豊富である。出雲市指定無形民俗文化財である「直江一式飾り」が毎年、夏祭りの時に自治会によって実施されている。また、小中学生が毎年一式飾りを体験学習し、次世代への継承がなされている。



町部・農村部とバランスが取れている地域

農業・商工業と多様な地場産業があり、多様な人材が活躍している。農業では法人化や結米などのブランド化も進んでいる。



交通アクセスの利便性が良く、医療・福祉施設も多い、生活しやすい環境

陸の玄関口「山陰道斐川IC」空の玄関口「出雲縁結び空港」等、交通網が進んでいる。また、医療機関や高齢者等福祉施設、比較的大きい商業施設やコンビニも多く立地している。

久木地区

出雲平野の農村文化の歴史を継承する「原鹿の旧豪農屋敷」

江戸時代中期にこの地に居を構え、農地改革当時には、186.5haの農地を有する豪農。江戸時代末期の建築様式の伝統や技術が施された主屋。本庭園は、典型的な出雲流枯山水庭園で「水琴窟」は稀有である。また、長さ4.6mの短冊石は日本最大級。



「原鹿の旧豪農屋敷」の築地松を代表とする、長い歴史と風土の中で育まれた出雲平野の象徴的な景観

日本の三大散居村のひとつ。出雲平野の散居集落の最大の特徴で、住居の西側と北側に黒松を主とした屋敷林。北西の強い季節風から家を守る防風林として、また、出雲平野の形成過程の洪水防止のためでもあった。現在は、防風のみとなったが田園風景の景観的役割も重要視されている。



花のまち斐川～今在家のチューリップ祭り

春はチューリップ、ツツジ、梅雨時期はハス、夏はひまわり、秋から冬にはシクラメンと自然豊かな斐川地域は、四季折々の花が楽しめる。当地域では毎年3月末から4月の間、大区画圃場の一面に30万本ものチューリップが花を咲かせ、多くの来園者で賑わう。

「一集落一農場方式」による高生産性農業と経営の多角化

84haの農地が標準区画2haに整備された圃場は、大型機械の導入を図り、安定した高生産性農業経営の実現を目指す。水稻を基幹作物に野菜のほかいちごやぶどうの観光農園も展開するとともに、春にはチューリップまつりを開催するなど地域の活性化を図っている。また、創設した斐川平野特有の築地松景観に調和する居住空間や農村公園は、都市近郊の農村モデルとされている。

地域伝統文化の継承～「七夕さん」と「とんどさん」

「七夕さん」と言えば、笹竹に願いごとを書いた短冊をつけて祭り、翌日、川に流す行事。子供たちが浴衣姿で町内を練り歩き、稲ハデの材料で組んだ高座の上で夜遅くまで笛と太鼓でまつる。「とんどさん」は、正月飾りを突いて祓え清める小正月の夕方に行う火祭り。無病息災、五穀豊穡を祈る行事となって今に伝わる。

出東地区

築地松のある田園風景

防風林としては、全国的にも珍しいクロマツ林。陰手刈り職人の技によって守られてきたその景観は、周囲の田園風景に馴染み、四季を通じて美しく、時の流れを忘れてしまう。



斐伊川河口部のなぎさ公園付近は自然に優しい環境で野鳥の宝庫

渡り鳥の飛来地となっており、毎年、多くの珍しい鳥が飛来し、愛鳥家・バードウォッチャー・フォトグラファーの目を楽しませている。



出雲平野東部を形成する大穀倉地帯と新進の花弁栽培事業

肥沃な出雲平野で食を支えている宮農組合・大規模農家。また、「万華鏡」で全国的に有名になったアジサイのほかシクラメン・ストック等を中心に近年急速に発展してきた花卉栽培は日本全国に誇れる。

宍道湖の恵みとしじみ漁風景

宍道湖の恵みと言えはしじみ汁と、寒鮎の刺身と味噌汁がこの地域ならではの食文化を形成している。また、早朝のしじみ漁の風景は幻想的でフォトジェニックである。

神話の国いずもの空の玄関口「出雲縁結び空港」

出東沖洲地区に位置する「出雲縁結び空港」は十月の神在月や出雲大社の神事・新年初詣の観光はもとより、ビジネスでの利用も多く、正に「ひと」「地域」を結ぶ縁結びの役割を果たしている。

6. 私の感じる「#出雲力」 フォトコンテスト入賞作品

「出雲力」の言葉を広く知ってもらおうとともに、出雲の持つ魅力や価値を再発見・再認識することを目的に、インスタグラムを活用したフォトコンテストを開催しました。

**最優秀
出雲力賞**

勝部 昌訓 様
松江市



**優秀
出雲力賞**

徳永フラヴィオ アキヒコ 様
出雲市



**優秀
出雲力賞**

ディオッサスポーツクラブ一同 様
出雲市



出雲力賞
順不同



星野 美絵 様
松江市



izumo_notes 様
出雲市



佐々木 建爾 様
出雲市



高野 みや 様
出雲市



大河原 由美子 様
出雲市



堀内 勇 様
和歌山県橋本市



原 知之 様
出雲市



宇野 将史 様
出雲市



金森 秀樹 様
出雲市



藤原 和彦 様
雲南市

7. 「出雲力」文字デザイン入賞作品

「出雲力」の言葉を周知・発信し、様々な人が出雲の持つ力「出雲力」を知るきっかけとすることや、出雲の持つ魅力や価値を再発見・再認識することを目的に「出雲力」の文字デザインの募集したところ、市内外から多数の応募がありました。

最優秀賞

小松 伸二 様
福岡市



※最優秀作品は、デザインアドバイザーを務めていただいた直良有祐氏の監修のもと、受賞者同意のうえでこの最終デザインとしました。

優秀賞



石田 正之 様
出雲市



成相 圭紀 様
出雲市

出雲力賞
順不同



濱屋 公香 様
出雲市



渡邊 友紀 様
出雲市



伊原 夏希 様
出雲市



梅 由希 様
出雲市

8. 各種計画一覧

個別計画の名称	策定年月 (最終改定年月)	始期	終期	計画の概要
前期基本計画	令和4年12月 [策定予定]	令和4年度	令和6年度	出雲市総合振興計画「出雲新話2030」のまちづくりの将来像「『出雲力』で夢☆未来へつなげ誰もが笑顔になれるまち」の実現をめざし、今後3年間の基本的な施策・事業を具体的かつ体系的に定めた計画
出雲市財政計画 (中期財政計画・長期財政見直し)	令和3年12月	令和4年度	令和13年度	出雲市総合振興計画の実施計画(中期財政計画:令和4年度(2022)～令和6年度(2024)及び長期財政見直し:令和7年度(2025)～令和13年度(2031))による、今後10年間の財政計画

ともに創る

個別計画の名称	策定年月 (最終改定年月)	始期	終期	計画の概要
出雲農業振興地域整備計画	令和3年3月	昭和46年度～ 昭和49年度 (旧市町で異なる)	-	農業の健全な発展を図るため、優良農地を確保し、農業振興施策を計画的に推進するための計画
出雲市農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画	平成27年4月 (令和3年4月)	-	-	市全域において農業・農村が有する多面的機能の維持・発揮の促進を図る計画
出雲市森林整備計画	平成30年4月 (令和4年4月)	平成30年度	令和9年度	地域の森林・林業の特徴を踏まえた森林整備の基本的な考え方や森林施策、森林の保護等の方針を定めた計画
出雲市鳥獣被害防止計画	平成23年4月 (令和3年3月)	令和2年度	令和4年度	鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止等を総合的かつ効果的に実施するための方針等を定めた計画(令和5年3月改定予定)
出雲市シカ対策基本計画	平成31年4月	令和元年度	令和5年度	鳥獣被害防止対策の中でも特に対策の強化が必要であるシカ対策について基本的な方針を定めた計画
出雲市中小企業・小規模企業振興計画	平成30年8月	平成30年度	令和4年度	出雲市地場中小企業・小規模企業振興基本条例の基本方針に基づき、市内中小・小規模企業の自主的な努力と創意工夫を尊重し、市内中小・小規模企業、市、商工支援団体、金融機関、教育機関、市民が一体となり、市内中小・小規模企業の持続的な進捗に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画(令和5年3月次期計画策定予定)

ともに守る

個別計画の名称	策定年月 (最終改定年月)	始期	終期	計画の概要
出雲市国土強靱化地域計画	令和2年9月 (令和3年4月)	令和2年度	令和6年度	大規模自然災害に対し、市民の生命と財産を守り、持続可能で強靱な地域づくりを推進するための計画
出雲市危機管理指針	令和4年5月	毎年改定	-	市の危機管理の基本指針。危機に対する総合的かつ計画的な対策を定める。
出雲市緊急事態等対処計画	令和4年5月	毎年改定	-	市民生活におけるあらゆる脅威等によって発生する緊急事態に対処するための対策を定めた計画
出雲市地域防災計画	令和4年5月	毎年改定	-	市における風水害、地震、津波、事故災害等に関する災害対策の基本的事項を総合的に定めた計画
出雲市水防計画	令和4年5月	毎年改定	-	市内の水防業務の調整及びその円滑な実施のため必要な事項を定めた計画
出雲市国民保護計画	令和4年5月	毎年改定	-	国民保護措置を的確かつ迅速に推進するための総合的事項を定めた計画
出雲市建築物耐震改修促進計画	平成20年2月 (平成30年3月)	平成20年度	令和7年度	建築物の耐震診断及び耐震改修の促進を図るための計画
第2期出雲市空家等対策計画	令和4年3月	令和4年度	令和8年度	空家等に関する対策を総合的かつ計画的に実施するための計画

個別計画の名称	策定年月 (最終改定年月)	始期	終期	計画の概要
出雲市環境総合計画(出雲市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】)	令和5年3月 [策定予定]	令和5年度	令和12年度	市の環境保全および地球温暖化対策を推進するための総合的かつ中長期的な施策について定める計画
いずもエコオフィス・アクトプログラムⅣ	令和5年3月 [策定予定]	令和5年度	令和12年度	市の事務及び事業の実施による脱炭素に向けた実行計画
第3次出雲市ごみ処理基本計画	令和5年3月 [策定予定]	令和5年度	令和12年度	ごみ減量化の推進及び適正なごみ処理を行うための基本方針と施策を定める計画
神西湖水環境保全指針	平成17年3月	-	-	地域住民一人ひとりが神西湖の水環境の保全、復元及び創造をめざし、自主的な水環境保全活動を展開していくためのガイドライン 平成17年3月に出雲保健所と市が共同して策定
出雲市トキによるまちづくり構想	平成23年8月 (令和4年4月)	平成23年度	-	国の野生復帰事業の一翼を担い、トキをシンボルとすることで、「自然環境」の保全・再生への意識高揚や「産業・文化・教育」との相乗効果を生み出し、人と自然が共生できるまちづくりを目指す計画

ともに結ぶ

個別計画の名称	策定年月 (最終改定年月)	始期	終期	計画の概要
第2期出雲市多文化共生推進プラン	令和2年6月	令和2年度	令和6年度	多文化共生推進施策の基本的な考え方や関連する施策を体系的にまとめ、市における多文化共生を推進するための取組方針を示す計画
出雲市歴史文化基本構想	平成29年1月	-	-	地域に存在する文化財を、有形・無形、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて的確に把握し、その周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための指針
出雲市文化財保存活用地域計画	令和3年7月	令和3年度	令和12年度	文化財保存・活用の目指す方向性や取組を定め、計画的かつ継続的に実施し、文化財の専門家や地域団体、地域住民が参画する地域社会総がかりによる文化財の次世代への継承を図るための計画

ともに支える

個別計画の名称	策定年月 (最終改定年月)	始期	終期	計画の概要
いきいき子どもプラン～第2期出雲市子ども・子育て支援事業計画～	令和2年3月	令和2年度	令和6年度	全ての子どもと子育て家庭を対象に、子ども・子育て支援施策の目標や方向性を示す計画
第3次出雲市地域福祉計画・地域福祉活動計画	平成30年3月	平成30年度	令和4年度	地域福祉を推進し、ぬくもりのある福祉のまちづくりを目指すために、行政による地域福祉計画と、出雲市社会福祉協議会の活動指針となる地域福祉活動計画を一体的に策定した計画(令和5年3月次期計画策定予定)
第2次出雲市障がい者計画 第6期出雲市障がい福祉計画 第2期出雲市障がい児福祉計画	令和3年3月	令和3年度	第2次出雲市障がい者計画 令和8年度 ※それ以外の計画は令和5年度	本計画は、障がい福祉に関する3つの計画を一体的なものとして取り組んでいくことから、3つの計画を1つにまとめて策定 福祉だけでなく、保健、医療、教育、就労支援など、幅広い分野にわたって障がい者施策を総合的に推進するために一体のものとして策定
第8期出雲市高齢者福祉計画・介護保険事業計画	令和3年3月	令和3年度	令和5年度	高齢者保健・福祉・介護施策の総合的推進の道しるべとなる計画
第1次在宅医療・介護連携推進基本計画(レピナスプラン)	令和3年3月	令和3年度	令和11年度	在宅医療と介護の連携を図り、一体的かつ持続的に提供していくための計画
出雲市健康のまちづくり基本計画(第2次出雲市健康増進計画・第3次出雲市食育推進計画)	平成30年3月	平成30年度	令和9年度	市の健康づくり、食育の取組を一体的、かつ総合的に推進するための計画
出雲市自殺対策総合計画	平成31年3月	令和元年度	令和5年度	総合的な自殺対策を構築し、関係機関や庁内各課と連携して生きる支援事業に取り組むことで自死者数の減少を図ろうとする計画
出雲市再犯防止推進計画	令和4年3月	令和4年度	令和9年度	行政、地域、支援者等が連携協働し、再犯防止施策を推進することを目的とした計画

個別計画の名称	策定年月 (最終改定年月)	始期	終期	計画の概要
出雲市国民健康保険第2期データヘルス計画(第3期特定健康診査等実施計画)	平成30年3月	平成30年度	令和5年度	健康・医療情報を活用した効果的かつ効率的な保健事業の計画(データヘルス計画)及び特定健康診査及び特定保健指導の具体的な実施方法等を定めた計画を一体的に策定した計画
出雲市国民健康保険事業計画	令和4年4月	毎年改定	-	令和4年度の市の国民健康保険事業の健全運営の確保に向け、効果的かつ効率的な事業を推進するため、関連情報を取りまとめ、取組の方向性や目標を定めた計画
出雲市人権施策推進基本方針(第三次改定)	令和5年3月 [改定予定]	令和4年度	-	同和問題をはじめ、様々な個人権課題に対応し、人権教育・啓発を総合的、計画的に推進するための指針となる計画
第5次出雲市男女共同参画のまちづくり行動計画	令和4年2月	令和4年度	令和8年度	市の男女共同参画のまちづくり実現のための施策について、総合的かつ計画的に実施するための計画
第4次出雲市DV(配偶者等からの暴力)対策基本計画	令和4年2月	令和4年度	令和8年度	配偶者等からの暴力防止と被害者の自立支援等の総合的な施策展開を行うための計画
出雲市都市計画マスタープラン	平成22年2月	平成21年度	令和10年	「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として地域別の市街地像や整備方針及び都市施設の計画等を定めた総合的な計画
出雲市都市計画マスタープラン(斐川地域)	平成25年9月	平成25年度	令和10年	斐川町の合併により、それまで未策定だった斐川地域の将来像、地域別構想を明らかにするため「出雲市都市計画マスタープラン」を補完する目的で策定
第2次幹線市道整備10か年計画	平成29年12月	平成30年度	令和9年度	令和9年度までの市内の幹線市道の整備計画
出雲市橋梁長寿命化修繕計画	平成28年3月 (令和4年3月)	令和3年度	令和7年度	「出雲市公共施設等総合管理計画」に基づき、道路橋における定期点検及び修繕の具体的な対応方針を定めた個別施設計画
出雲市道路トンネル長寿命化修繕計画	平成29年3月 (令和4年3月)	令和4年度	令和8年度	「出雲市公共施設等総合管理計画」に基づき、道路トンネルにおける定期点検及び修繕の具体的な対応方針を定めた個別施設計画
出雲市横断歩道橋長寿命化修繕計画	平成29年3月 (令和4年3月)	令和4年度	令和8年度	「出雲市公共施設等総合管理計画」に基づき、横断歩道橋における定期点検及び修繕の具体的な対応方針を定めた個別施設計画
出雲市シェッド長寿命化修繕計画	平成29年3月 (令和4年3月)	令和4年度	令和8年度	「出雲市公共施設等総合管理計画」に基づき、シェッド(落石等から道路を守るためのコンクリート製の屋根)における定期点検及び修繕の具体的な対応方針を定めた個別施設計画
出雲市門型標識長寿命化修繕計画	平成29年3月 (令和4年3月)	令和4年度	令和8年度	「出雲市公共施設等総合管理計画」に基づき、門型標識における定期点検及び修繕の具体的な対応方針を定めた個別施設計画
出雲市公営住宅等長寿命化計画	平成25年3月	平成25年度	令和4年度	市営住宅の効率的な長期活用、管理を行うため、大規模修繕や建替事業の事業手法を定めた計画(令和5年3月次期計画策定予定)
出雲市水道事業ビジョン	平成30年9月	平成30年度	令和9年度	将来の事業環境を踏まえ、安全で安心な水を安定供給し続ける水道を基本理念とし、「安全」「強靱」「持続」の3つの基本方針を重点的に実現する方策をまとめた計画
出雲市水道事業経営戦略	令和4年3月	令和4年度	令和13年度	公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画
出雲市汚水処理施設整備計画(概成計画)	平成28年4月	平成29年度	令和18年度	公共下水道事業及び合併処理浄化槽の整備により効率的かつ計画的な取組みを推進するための計画
出雲市下水道事業経営戦略	令和4年6月	令和5年度	令和14年度	公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画
出雲市地域公共交通計画	令和5年3月 [策定予定]	令和5年度	令和9年度	地域住民、交通事業者をはじめとする関係者との協同により、利便性が高く持続可能な公共交通サービスを確保するための方向性を定めた計画
出雲市景観計画	平成20年3月 (平成26年3月)	平成20年度	-	市の景観づくりの方向を明らかにし、将来にわたって出雲らしい景観づくりの指針を示す計画
出雲市デジタルファースト推進計画	令和3年3月	令和3年度	令和7年度	「出雲市デジタルファースト宣言」に基づき市の情報施策の推進方針を示す計画。出雲市官民データ活用推進計画としても位置づけ。

ともに育む

個別計画の名称	策定年月 (最終改定年月)	始期	終期	計画の概要
第2期出雲市教育大綱	令和4年2月	令和4年度	令和8年度	学校教育に関する総合的な施策の大綱
第4期出雲市教育振興計画	令和4年9月	令和4年度	令和8年度	教育の基本方針と施策を示す計画
第2期出雲市保幼小連携推進基本計画	平成31年3月	令和元年度	令和5年度	子どもたちの育ちと学びのつながりを大切に保幼小連携を推進するための計画
出雲市学校施設整備・耐震化基本計画	平成24年3月	平成24年度	令和8年度	学校施設の現状と課題を把握し、学校施設整備の計画基準を明確化するとともに、学校施設整備・耐震化の基本方針を示す計画
出雲市通学路交通安全プログラム	平成26年7月 (令和2年1月)	-	-	通学路の安全確保に関する取組の方針
出雲市社会教育計画	平成31年3月 (令和4年3月)	令和元年度	令和5年度	市の社会教育を進める拠り所となる理念と目標を示す計画

ともに楽しむ

個別計画の名称	策定年月 (最終改定年月)	始期	終期	計画の概要
出雲市芸術文化推進指針	令和4年2月	令和4年度	令和8年度	市民と行政の協働による市の芸術文化の振興に関する基本的な考え方を示すものとして策定
第2期出雲市スポーツ推進計画	令和4年2月	令和4年度	令和8年度	国が示しているスポーツが持つ意義を念頭におきながら、市のスポーツの振興・発展を図るため、スポーツ推進計画を策定
第3次出雲市子ども読書活動推進計画	令和2年3月	令和2年度	令和6年度	市における子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的・計画的に実施するための計画

その他

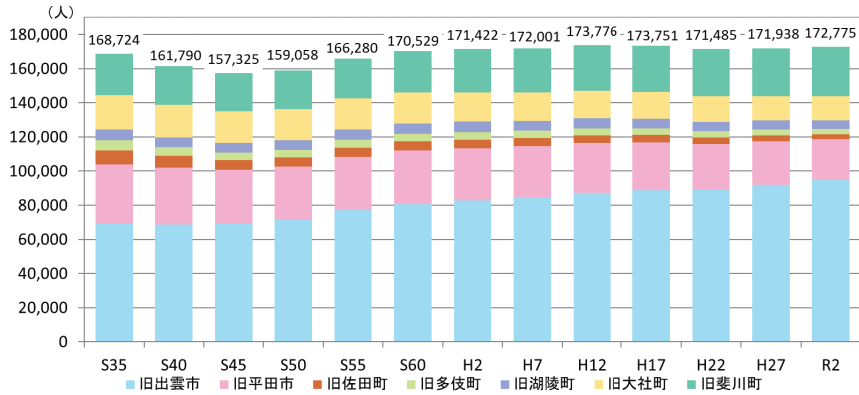
個別計画の名称	策定年月 (最終改定年月)	始期	終期	計画の概要
出雲市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」・「第2期総合戦略」	令和2年3月 (令和4年3月)	令和2年度	令和6年度	国・県の総合戦略を踏まえるとともに、人口ビジョンにおいて示した人口の将来展望のもと、「今後5か年の基本目標」や「施策の基本的方向」、「具体的な施策」を取りまとめた計画
出雲市定住自立圏共生ビジョン	令和2年3月 (令和4年3月)	令和2年度	令和6年度	定住のための暮らしに必要な諸機能を確保するとともに、自立のための経済基盤や地域の誇りを培い、豊かさを実感できる地域をめざし、圏域(市域)全体の均衡ある発展をめざす計画
出雲市過疎地域持続発展計画	令和3年9月	令和3年度	令和7年度	過疎地域(佐田・多伎地域)の持続発展をめざし、社会基盤の整備、安心・安全な地域生活確保対策、地域資源を活かした産業振興・雇用対策などを柱とした総合的な計画
出雲市行財政改革大綱	平成26年4月	平成26年度	令和5年度	策定後概ね10年間における行財政改革の指針
出雲市行財政改革第2期実施計画	平成31年4月	令和元年度	令和5年度	「出雲市行財政改革大綱」に基づき、後期5年間に実施する取組の内容などを定めた計画
出雲市公共施設等総合管理計画	平成28年3月 (令和4年3月)	平成28年度	令和27年度	市が所有する公共施設等(公共建築物、インフラ資産)について、総合的かつ計画的な管理を行うための中長期的な取組方針を定めた計画
出雲市公共施設のあり方指針(第2次)	令和5年3月 [策定予定]	令和5年度	令和12年度	「出雲市公共施設等総合管理計画」、「出雲市行財政改革大綱」の方針に基づき、公共施設の適量化に向けた施設区分ごとの取組方針を定めた指針

9. 統計データ

1. 人口

(1) 人口の推移

本市の人口は、平成12年国勢調査まで増加傾向で推移し、平成17年調査で減少に転じましたが、平成27年から令和2年にかけて増加傾向にあります。世帯数は64,408世帯で年々増加しています。

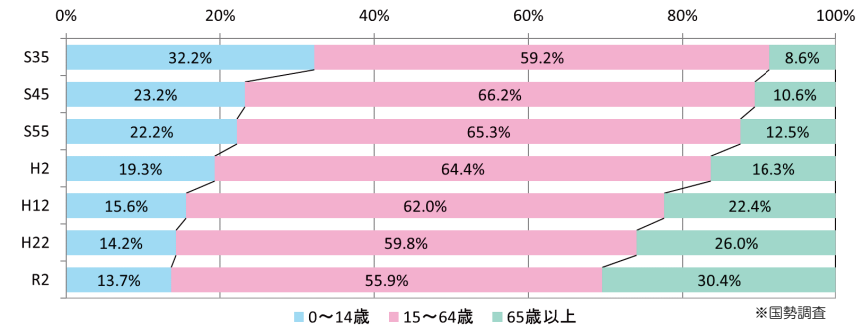


	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
旧斐川町	24,207	23,014	22,384	22,744	23,829	24,592	25,221	25,787	26,816	27,444	27,689	28,009	29,042
旧大社町	20,181	19,021	18,350	18,167	18,203	17,970	17,284	16,683	16,020	15,581	14,916	14,342	13,916
旧湖陵町	6,396	5,662	5,618	5,707	5,951	6,044	5,981	5,779	5,813	5,732	5,369	5,270	5,017
旧多伎町	5,772	5,199	4,424	4,330	4,498	4,543	4,436	4,321	4,215	3,905	3,767	3,543	3,202
旧佐田町	8,150	7,001	5,911	5,600	5,429	5,316	5,189	4,870	4,576	4,213	3,816	3,406	2,988
旧平田市	34,799	33,128	31,560	30,942	31,067	31,315	30,632	29,707	29,006	28,071	26,908	25,294	23,625
旧出雲市	69,219	68,765	69,078	71,568	77,303	80,749	82,679	84,854	87,330	88,805	89,020	92,074	94,985
合計	168,724	161,790	157,325	159,058	166,280	170,529	171,422	172,001	173,776	173,751	171,485	171,938	172,775
世帯数	33,499	35,175	36,800	38,960	41,635	44,696	46,152	48,637	52,661	54,828	55,952	60,130	64,408

※国勢調査

(2) 年齢区分別人口割合の推移

年齢別の構成比は、昭和35年と令和2年を比較すると、14歳以下の年少人口割合が32.2%から13.7%と半数以下となりました。15歳から64歳までの生産年齢人口割合は59.2%から55.9%と減少し、65歳以上の高齢者人口割合は8.6%から30.4%と3.5倍に増加しており、少子高齢化が進行しています。



※国勢調査

(3) 人口動態

■ 自然動態

出生数が年々減少しているのに対し、死亡数は増加傾向にあります。出生数は平成27年に微増、死亡数は令和2年に微減していますが、近年は死亡数が出生数を大きく上回り、自然動態は減少となっています。



※島根県推計人口

■ 社会動態

転出数と転入数は年によってバラつきがありますが、転出数と転入数が概ね均衡した状況となっています。



※島根県推計人口

2. 産業構造

(1) 産業別就業人口（15歳以上）

昭和60年から令和2年までの35年間で、第1次産業就業者割合は3分の1以下になりました。第2次産業は昭和60年から同様に減少していますが、令和2年には微増しています。第3次産業は第1次産業、第2次産業で減少した就業者割合を吸収する形で増加しています。



※国勢調査

(2) 農業

総農家は平成2年と令和2年を比較すると半数以下になり、農業産出額、農業就業人口も、平成27年までは減少傾向でしたが、令和2年に増加に転じています。経営耕地面積も減少傾向にあります。



※農林業センサス
※平成22年度の農業産出額については、国が公表していないことから示していません

(3) 漁業

漁業経営体数は減少の一途をたどっており、平成22年に若干の増加に転じましたが、その後減少しています。一方で、漁獲量は平成27年に増加しています。



※昭和60年～平成27年 島根農林水産統計年報
※平成30年 中国農林水産統計年報

(4) 工業（従業者数4人以上の製造業）

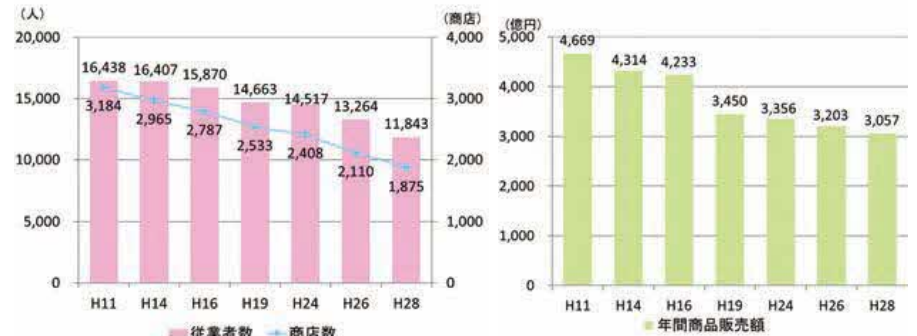
事業所数は、平成7年以降減少傾向となっていますが、従業者数は少しずつ増加しています。製造品出荷額は平成12年をピークに減少していましたが、平成22年から増加傾向にあります。



※工業統計調査

(5) 商業

商店数、従業者数ともに平成11年以降減少傾向で推移しています。年間商品販売額は、平成19年に大きく減少し、その後も減少傾向で推移しています。



※商業統計調査、経済センサス活動・基礎調査

10. 諮問書・答申書

諮問書

政 策 第 4 1 1 号
令和3年(2021)10月21日

出雲市総合計画審議会
会長 三 吉 庸 善 様

出雲市長 飯 塚 俊 之
(総合政策部政策企画課)

新たな出雲市総合計画について (諮問)

現行の出雲市総合振興計画(出雲未来図)が、本年度をもって計画期間が満了となるため、今後の本市のまちづくりの方向性と将来像を描く、新たな出雲市総合計画を策定するにあたり、貴会の意見を求めます。



答申書

令和4年(2022)8月8日

出雲市長 飯 塚 俊 之 様

出雲市総合計画審議会
会長 三 吉 庸 善

新たな出雲市総合計画について (答申)

令和3年10月21日、当審議会に対し意見を求められた新たな出雲市総合計画について、別添のとおり答申します。



11. 出雲市総合振興計画「出雲新話2030」策定経過

令和3年度(2021)

- 9月 9月24日～10月10日
市民満足度調査の実施
- 9月～10月
高校生アンケート調査の実施
- 10月 10月13日
第1回市職員若手ワーキンググループ会議
(概要説明・グループワーク)
- 10月15日
第1回出雲市総合計画推進本部会議(出雲未来図検証結果及び次期出雲市総合振興計画全体方針の検討)
- 10月21日
第1回出雲市総合計画審議会(審議会委員委嘱、会長・副会長選出、諮問、出雲未来図検証結果及び次期出雲市総合振興計画全体方針の審議)
- 11月 11月1日～11月11日
市職員若手ワーキンググループメンバーによる関係団体ヒアリング
- 11月14日
第2回市職員若手ワーキンググループ会議
(めざす将来像の検討)
- 11月16日
第3回市職員若手ワーキンググループ会議
(施策の「柱」の検討)
- 12月 12月10日～
いずも未来ミーティング動画配信(市長と島根大学学生との懇談会)
- 12月10日
第2回出雲市総合計画推進本部会議(計画の構成、基本理念、市の将来像及び基本方針の検討、市民満足度調査及び高校生アンケート調査の結果検討等)
- 12月21日
第2回出雲市総合計画審議会(計画の構成、基本理念、市の将来像及び基本方針の審議、市民満足度調査及び高校生アンケート調査の結果審議等)
- 1月 1月6日
第1回市職員調整ワーキンググループ会議
- 1月28日
第3回出雲市総合計画推進本部会議(次期出雲市総合振興計画素案の検討)
- 2月 2月8日
第3回出雲市総合計画審議会(次期出雲市総合振興計画素案の審議)
- 3月 3月9日～3月17日
市議会議員(各常任委員会)との意見交換



市職員若手ワーキンググループ会議



いずも未来ミーティング

令和4年度(2022)

- 4月 4月8日
第4回出雲市総合計画推進本部会議 (次期出雲市総合振興計画素案の検討)
 4月11日～5月13日
各自治協会ヒアリング (市職員若手ワーキンググループメンバー及び事務局職員)
 4月19日～5月25日
公聴会 (全14か所開催・詳細次頁記載)
 4月27日
第2回市職員調整ワーキンググループ会議
- 5月 5月13日
第5回出雲市総合計画推進本部会議
 (次期出雲市総合振興計画素案の検討)
 5月27日
第4回出雲市総合計画審議会 (次期出雲市総合振興計画素案の審議)
- 6月 6月8日～7月7日
パブリックコメント
 6月29日
私の感じる「#出雲力」フォトコンテスト審査結果発表
- 7月 7月15日
第6回出雲市総合計画推進本部会議
 (次期出雲市総合振興計画素案の最終検討)
 7月28日
「出雲力」文字デザイン審査結果発表
 7月29日
第5回出雲市総合計画審議会 (次期出雲市総合振興計画案の審議)
- 8月 8月8日
答申



公聴会



出雲市総合計画審議会

公聴会の開催

公聴会 ～みんなで語ろう考えよう 出雲の未来と「出雲力」～
 全14か所で開催 (参加者数 462人/意見数 208件)

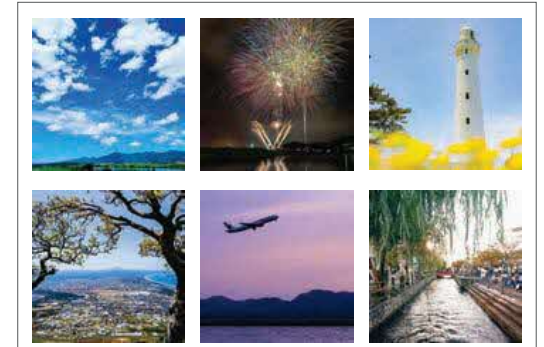
日程			開催場所	中学校区	対象地区
月日	曜日	時間			
4月19日	火	19:00～20:30	佐田行政センター	佐田中学校	須佐、窪田
4月20日	水	19:00～20:30	アクティーひかわ	斐川西中学校	出西、阿宮、伊波野、直江、久木
4月21日	木	19:00～20:30	湖陵コミュニティセンター	湖陵中学校	湖陵
4月23日	土	14:00～15:30	多伎コミュニティセンター	多伎中学校	多伎
4月25日	月	19:00～20:30	平田文化館	平田中学校	平田、国富、西田、鱈淵、久多美、北浜、佐香
4月28日	木	19:00～20:30	大社文化プレイスうらら館	大社中学校	大社、荒木、遙堪、日御碕、鶺鴒
5月12日	木	19:00～20:30	出雲市民会館	第二中学校	塩治、古志
5月13日	金	19:00～20:30	朱鷺会館	河南中学校	神門、神西
5月14日	土	14:00～15:30	斐川文化会館	斐川東中学校	莊原、出東
5月16日	月	14:00～15:30	朝山コミュニティセンター	南中学校	稗原、朝山、乙立
5月17日	火	19:00～20:30	出雲健康公園(健康センター)	第三中学校	四絡、高浜、川跡、鳶巣
5月18日	水	19:00～20:30	東コミュニティセンター	向陽中学校	灘分、檜山、東、伊野
5月19日	木	19:00～20:30	出雲文化伝承館(縁結び交流館)	浜山中学校	高松、長浜
5月25日	水	14:00～15:30	出雲科学館	第一中学校	今市、大津、上津

自治協会ヒアリングの実施

令和4年4月11日～5月13日
 出雲市内の42自治協会

パブリックコメントの実施

令和4年6月8日～7月7日
 意見の提出者数 8人
 意見数 36件



※「出雲力」フォトコンテスト応募写真

12. 出雲市総合計画審議会委員名簿

出雲市総合計画審議会委員名簿

(敬称略 22名)

役職	氏名	区分	組織・役職等	備考
会長	三吉庸善	商工業	出雲商工会議所会頭	
副会長	吉田美智子	芸術文化	出雲文化伝承館館長(～R4.3.31)	

(以下五十音順)

氏名	区分	組織・役職等	備考
青山博之	漁業	漁業協同組合JFしまね大社支所長	
安喰愛	スポーツ	(公財)島根県スポーツ協会	
板垣成二	議会	出雲市議会副議長	R4.5.11～
伊藤繁満			
岡彩子	青年	出雲青年会議所ひとづくり委員会委員長(～R3.12.31)	
落合のり子	男女共同参画	島根県立大学看護栄養学部看護学科准教授	
金築千晴	教育	出雲市教育委員	
河上史子	多文化共生	NPO法人出雲フィンランド協会	
北村功	IT	チーム出雲オープンビジネス協議会会長	
齋藤茂子	健康・福祉	島根県立大学名誉教授	
塩飽邦憲	健康・福祉・医療	島根大学名誉教授	
高砂明弘	林業	出雲地区森林組合代表理事組合長	
田邊達也	観光	出雲観光協会会長	
萬代輝正	議会	出雲市議会議長	
福島沙織	中山間地域	地域おこし協力隊員(～R4.3.31)	
堀江泰誠	子育て	出雲市保育協議会会長	
松林亜希子	ボランティア	こりょうブックフレンド	
水師幸夫	自治会	出雲市自治会連合会会長(令和3年度)	
山崎英樹	青年	出雲青年会議所理事長	R4.1.4～
森山恵介			
山根善治	農業	J Aしまね斐川地区本部常務理事本部長	
山本富子	環境	NPO法人かえる倶楽部理事長	

13. 出雲市総合計画推進本部名簿 ほか

出雲市総合計画推進本部名簿

役職	氏名		所属等
	R3～4年度	R4年度(人事異動)	
本部長	飯塚俊之		市長
副本部長	伊藤功		副市長
副本部長	-	井上夏穂里	副市長(R4.7.1～)
本部長	杉谷学		教育長
本部長	石田武		上下水道事業管理者
本部長	藤原英博		総合政策部長
本部長	建部敏紀	三島武司	総務部長
本部長	間島尚志	安食和彦	防災安全部長
本部長	安井孝治	間島尚志	財政部長
本部長	岡眞悟	金築真志	健康福祉部長
本部長	佐藤恵子	小村信弘	子ども未来部長
本部長	三代均	岡眞悟	市民文化部長
本部長	橋本孝		経済観光部長
本部長	三島慎也		地域環境部長
本部長	金築真志	三代均	農林水産部長
本部長	金山隆司	北脇正巳	都市建設部長
本部長	三島武司	安井孝治	副教育長
本部長	平井孝弥	竹田豊	消防長
本部長	小村信弘	原康正	総合医療センター事務局長
本部長	上代真弓	木村亨	議会事務局長
本部長	木村亨	川瀬道子	監査委員事務局長
本部長	小村真咲美	清水良洋	平田行政センター所長
本部長	重富圭二		佐田行政センター所長
本部長	柳楽伸一郎		多伎行政センター所長
本部長	片寄靖久	本田公博	湖陵行政センター所長
本部長	新宮啓史		大社行政センター所長
本部長	遠藤邦博		斐川行政センター所長

調整ワーキンググループ名簿

部・局	課名	R3~4年度		R4年度(人事異動)	
		役職	氏名	役職	氏名
総合政策部	政策企画課	係長	松浦昭史		
総務部	総務課	課長補佐	高木直樹		
防災安全部	防災安全課	室長	角篤志		
財政部	財政課	主査	鳥屋尾由美子	課長補佐	山本学
健康福祉部	福祉推進課	主査	松井博之	主査	山崎久美子
子ども未来部	子ども政策課	課長補佐	倉橋潤		
市民文化部	市民活動支援課	課長補佐	今岡麻紀	課長補佐	星野健一
経済観光部	産業政策課	課長補佐	岡文造		
地域環境部	環境政策課	係長	津田淳		
農林水産部	農業振興課	課長補佐	今岡豊	主査	陰山真樹
都市建設部	建設企画課	係長	高松容子	係長	田中智之
教育委員会	教育政策課	課長補佐	池尻精二		
消防本部	消防総務課	係長	板倉孝洋		
上下水道局	経営企画課	課長補佐	寺本真由美		
総合医療センター	病院総務課	課長補佐	原田博之		

若手ワーキンググループ名簿

課名・役職	氏名	課名・役職	氏名
政策企画課 主任	陰山亮子	商工振興課 主事	安井駿介
秘書課 副主任	錦織圭佑	森林政策課 主事	佐野典樹
縁結び定住課 主事	福岡友喜	建築住宅課 副主任技師	神田信広
総務課 主事	西浩生	都市計画課 主事	大野美穂
管財契約課 副主任	松井洋司	教育政策課 主事	曾田文乃
市民税課 主事	今井美由紀	学校教育課 副主任	加藤由貴
高齢者福祉課 主事	芦野江梨	児童生徒支援課 副主任	片山研司
市民課 副主任	片木優喜	予防課 消防士長	石田成
文化スポーツ課 副主任	原彩恵子	水道施設課 副主任	小村享弘
商工振興課 主事	和田佳奈子	病院総務課 主任	曾我部雅也

事務局

課名・役職	氏名	
	R3~4年度	R4年度(人事異動)
総合政策部長	藤原英博	
総合政策部 次長(政策企画課長)	安食和彦	内藤雅超
政策企画課 課長補佐	杉原るみ子	
政策企画課 係長	松浦昭史	
政策企画課 係長	廣澤陽子	山内利朗
政策企画課 主任	濱村章彦	秦勇二



出雲市
総合振興計画
出雲
新話
2030

発行年月
令和4年(2022)9月

・発行・

出雲市

(総合政策部 政策企画課)

〒693-8530 島根県出雲市今市町70番地
Tel. 0853-21-6614 Fax. 0853-21-6752
e-mail: seisaku@city.izumo.shimane.jp
ホームページ: <https://www.city.izumo.shimane.jp/>